



イザヤ書からの見解（Ⅰ）

Vol. 92, No.3

2016年7月-9月

目次

ぶどう畑の状態	5
改革の機は熟す	10
現実直面する	15
義のために論じる	20
わたしたちの憐れみ深い御父	25
同盟による不信	31
ヒゼキヤ	36
誇りと謙遜	41
人間は説明の義務がある	46
柔和な者のための導き	52
悔い改めた者への憐れみ	57
今日のためのメッセージ	62
今日のための使命	67

セブンスデーアドベンチスト
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.92, No.3

編集&発行:
S DA改革運動日本ミッション

〒368-0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607-1

TEL: (0494) 22-0465

FAX: (0494) 40-1045

URL:
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト: Illustrations:
Advent Digital Media on
the front cover and Map
Resources on pp. 4, 51, 72;
Design Pics on pp. 31, 72.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

安息日聖書教科では、これから二期にわたってイザヤ書からの見識を吟味していきます。

イザヤ書は歴史の物語として、必ずしも年代順には記されませんでした。その多くはこの神のしもべが幻を通して与えられ、わたしたちの教えと啓蒙のために記すよう託された預言の見識が含まれています。

「〔イザヤ〕は、60 年以上にわたって、希望の預言者として、ユダの人々の前に立ち、ますます勇敢に、教会の将来の勝利を預言したのである。」(国と指導者上巻 275)

「生ける神を眺め、神の恵み深いお言葉を受け入れるようにユダに訴えたイザヤの勧告は、むだにはならなかった。熱心に耳を傾けて、偶像礼拝をやめて、主の礼拝に立ち返った人々があつたのである。彼らは、彼らの創造主が、愛とあわれみといつくしみに満ちたおかたであることを悟った。そして、わずかな残りの者が国内にとどまるという、ユダの歴史の来たるべき暗黒の日々において、預言者イザヤの言葉は実を結びつけて、決定的改革を起こしたのである。イザヤは言った。『その日、人々はその造り主を仰ぎのぞみ、イスラエルの聖者に目をとめ、おのれの手 のわざである祭壇を仰ぎのぞまず、おのれの指が造ったアシラ像と香の祭壇とに目をとめない』(イザヤ 17:7, 8)。(同上 284)

ここにわたしたちはイザヤの預言的な使命によって支援され、なし遂げられた改革をみます。今日もそのような改革の時ではないでしょうか。確かに、わたしたちはこれらの教訓が最終的な裁きの準備において、わたしたちにとってこれほど重要である理由を認めることができます。その裁きは、「神の家から始められ」なくてはならないと教えられています(ペテロ第一 4:17)。

わたしたちはたしかに純潔と聖潔が、イザヤの強調した重要な主題であつたことがわかります。わたしたちは天のカナンのまさに境界に立っている者として、同じことをしないでしょいか。

改革は重要です。そしてそれはリバイバルと相共に働きます。これから六ヶ月間、この二つがイザヤ書の中にあるように、結びつくことでしょう。

「リバイバルと改革は聖霊の働きの下でなされなければならない。リバイバルと改革は二つの異なることである。リバイバルは霊的な命が新たにされること、思いと心の力がよみがえること、霊的な死からの復活を意味する。改革は再組織であり、考えや理論、習慣や慣習における変化である。改革は御霊のリバイバルと関連がない限りよい実を結ぶことはない。リバイバルと改革はそれぞれ定められた働きをなすべきであり、この働きをする際、交じり合わなければならない。」(レビュー・アンド・ヘルド 1902 年 2 月 25 日)

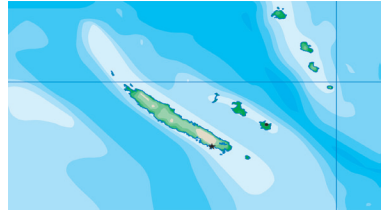
主がわたしたちの研究を導いてくださり、このお方を通してこの経験を得ることができるようになります。

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

ニューカレドニア、マレ島の礼拝堂のために

ニューカレドニアは 18,576 平方キロメートルの面積を持ち、南太平洋に位置するフランス共和国の列島です。オーストラリアの東 1500 キロメートル、ニュージーランドの北 2000 キロメートルのところに位置しています。島の一群は、メラネシア区域の一部で、本島のグランデ・テレ、ベレブ列島、パイン島、またリフォウ、オウヴィア、マレなどで知られる遠方のいくつかの小島から成っています。



人口は 2014 年 8 月現在で 268,000 人、三つの州にわたって分割されています。北州、南州、ロイヤルティ島州です。人口はニューカレドニアにもともと住んでいるメラネシア人、ポリネシア人、ウヴィア人、ヨーロッパ人、そして東南アジア人が混じっています。この地域の首都は、ヌメアです。

人口の半分はローマ・カトリックで、多くはヨーロッパ人、ウヴィア人、ベトナム人、そして半分はメラネシア人とポリネシア人の少数民族です。プロテスタントを信奉している人はほとんどメラネシア人です。また数多くの他のキリスト教のグループやわずかなイスラム教徒がいます。

リバイバルと改革のメッセージがニューカレドニアに伝えられたのは、1984 年でした。働きは進展し、今日、二つのグループが存在するまでになりました。一つはヌメアに、もう一つはマレ島にです。わたしたちのメッセージが届いているのはまだ北州だけです。

当初は、ニューカレドニアミッションはフランス領ポリネシアフィールド直轄でした。しかし、2012 年に世界総会の直轄となり、2013 年 12 月に南太平洋連合ミッションを設立した 7 つのミッションの一つとなりました。

神のみ恵みにより、マレにいる一人の兄弟が教会の建物のために土地を寄贈しました。今、初めて、わたしたちは主のために礼拝の家を建設することになっています。しかしながら、わたしたちの資金はこの事業を完成させるのに十分ではありません。そこで、世界中の兄弟姉妹のみなさんに、わたしたちがこの計画を実現するのを助けてくださるようお願いします。わたしたちを覚えて献金してくださるときに、主が皆さんを素晴らしく祝福し、豊かな恵みを降り注いでくださるようにと祈ります。

「栄光を主に帰し、その誉を海沿いの国々で語り告げよ」(イザヤ 42:12)。

ニューカレドニアの皆さんの兄弟姉妹より

ぶどう畑の状態

「わたしが、ぶどう畑になした事のほかに、何かなすべきことがあるか。わたしは良いぶどうの結ぶのを待ち望んだのに、どうして野ぶどうを結んだのか。」（イザヤ 5:4）

「あなた自身の意志、長い間偶像化していたあなた固有の習慣を明け渡しなさい。そうすれば、真理の諸原則を受けることができる。こうしてあなたはまことのぶどうの木の子となる。そしてあなたはのぶどうやとげのあるベリーではなく、尊い実の豊かな房をつけるようになる。」（ビュー・アット・ヘラルド 1892 年 4 月 12 日）

推奨文献：国と指導者上巻 主のぶどう畑 1-7、268-270

日曜日

6月26日

1. 大切にされたぶどう畑

- a. どの目的のために、創造主はヘブル国家を設立されましたか（創世記 12:2; 申命記 7:6-8; 26:17-19）。
- b. この国家はなぜ深く神に感謝すべきだったのですか（申命記 32:9-12）。
- c. 神はどのようにヘブル国民が他の諸国民を祝福するよう計画しておられましたか。またこれは今日、どのようにわたしたちにあてはまりますか（申命記 4:5-8; マタイ 5:16）。

「主はご自分の目をご自分の民の一人びとりの上に注いでおられる。このお方には各人に関するご計画がある。ご自分の聖なる規則を実践する者が区別された民となることが、このお方のご目的である。……

この世ばかりでなく、宇宙にも、わたしたちは〔神の〕御国の諸原則を明らかにしなければならない。」（教会への証 6 巻 12, 13）

2. 今日のぶどう畑の状態

a. なぜ神はご自分が愛されたぶどう畑に失望されたのですか（イザヤ 5:1-4）。

「〔ユダヤ国民〕は管理者の責任を負わせられていたぶどう畑の実を、自分たちの用に供しようとした。彼らの貪欲と強欲は、異邦人からさえ軽べつされた。こうしたことを理由にして、異教徒の世界は、神のご品性と神の国の律法とを誤って解釈するに至ったのである。」（国と指導者上巻 主のぶどう畑 5-6）

b. 教会はいつ、まことのぶどうの木からの実を結ばなくなりますか（ヨハネ 15:4）。

「主はご自分の教会をぶどうの木として果樹園に植えられた。……しかし、この神の植えられたぶどうの木は地に向かう傾向があり、その巻きひげを人間の支援の周りに巻きつけた。その枝は遠く、広く広がったが、墮落したぶどうの実を結んだ。……

主はご自分の教会に大いなる祝福を授けてこられた。正義はこれらのタラントに高い利子をつけて戻すことを要求する。教会の守りに委ねられた真理の宝が増し加わるにつれ、教会の義務は増し加わった。しかし、これらの賜物を生かして、完全へと向かう代わりに、教会は初期の経験において到達したところから、すっかり落ちてしまった。教会の霊的な状態の変化は徐々に起こり、ほとんど気づかれなかった。教会が世の賞賛と親交を求め始めると、その信仰は衰え、熱心さは緩慢となり、熱い献身は死んだ形式主義に場所を譲った。誇りと世俗的な野心が大事にされ、キリストの精神は離れ去り、競争、不和、紛争が入り込んで教会の注意をそらし、弱体化させた。」（教会への証 5 巻 240, 241）

c. 神はわたしたちがどのような種類の実を結ぶのをご覧になりたいと切望しておられますか（ガラテヤ 5:22, 23）。

「キリストが忍耐強く世話をされた後にお求めになる実は、信仰、忍耐、愛、寛容、天来の思い、柔和である。これらは日光の中と同様に、嵐と雲と闇のただ中で熟す実の房である。」（同上 117）

3. 浅い経験を避ける

- a. ユダの王、ウザの治世の当初の主の霊的なぶどう畑の状態を述べなさい（列王記下 15:1-3; 歴代志下 26:1-7, 15）。

「ウジャ（アザリヤとも呼ばれた）が、ユダとベニヤミンの地を治めた長い期間は、約二世紀前のソロモンの死以来、他のどの王も達成することができなかった大いなる繁栄の時であった。王は、長年にわたって、賢明な統治を行った。彼の軍勢は、天の神の恵みによって、前に失った領地を部分的ではあるが取り返した。町々は再建され、防備を固められて、周囲の国々の間における国家の地位は、大いに強化された。商業は再開されて、国々の富が、エルサレムに流れ込んだ。」（国と指導者上巻 268）

- b. 構図を暗くした霊的な汚点の幾つかを挙げなさい（列王記下 15:4）。

「ところが、この〔ウザの統治下における〕外面的繁栄には、それにふさわしい霊的能力のリバイバルが伴わなかった。神殿の務めは、以前と同様に続けられ、群衆は、生ける神の礼拝のために集まっていた。しかし、誇りと形式主義とが、徐々に、謙遜と誠実にとって代わった。」（同上）

- c. 悪を捨ててをなござりになると、わたしたちはどのように苦しむことになりすか（雅歌 2:15）。

「多くの人々は自分の品性にある欠点を甘くみて、言い訳する。しかし、これらはみな正されなければならない。正しいことからそれることはみな罪であり、罪は捨て去らなければならない。わたしたちは兄弟の前で、また世の前で、不注意に歩くようなことはできない。

多くの人々は自分たちの罪を繰り返し何度も告白するが、本物の悔い改めによってそれらを捨て去ることをしない。わたしたちに堅固な目的と神の恵みの助けがないならば、強い決心と油断のない警戒はむだとなり、誘惑が魂を攻撃するとき、力がない。」（サインズ・オブ・タイムズ 1884 年 3 月 6 日）

ぶどうを荒らすのはこぎつねである。すなわち、小さい怠慢、小さい欠陥、小さい不正直、小さい原則からの逸脱が魂を盲目にし、神から引き離すのである。」（天国で 226）

4. 誇りによって色あせた

a. なぜ災難がウザに訪れたのですか（歴代志下 26:16-21; 民数記 15:30）。

「ウジヤにこのような悲惨な結果をもたらした罪は、僭越の罪であった。王は、アロンの子孫以外は祭司の務めをしてはならないという主の明白な命令にそむいて、聖所にはいり、『香の祭壇の上に香をたこうとした』。大祭司アザリヤは、他の祭司たちと共に、王をいさめて、彼のしようとするをやめさせようとした。『あなたは罪を犯しました。あなたは主なる神から栄光を得ることはできません』と彼らは訴えた（歴代志下 26:16, 18）。

ウジヤは、王である彼が、このように譴責されたことを激しく怒った。しかし、彼は、権威者たちの一致した反対を押し切って、聖所を汚すことを許されなかった。彼が、怒りを発して反逆し、そこに立っていたときに、彼は、突然、神の刑罰に打たれた。らい病が彼の額にあらわれたのである。彼は、うろたえて逃げ去り、二度と神殿にはいることはなかった。ウジヤは、その後数年の間、彼が死ぬ日まで、らい病であって、明白な、『主はこう仰せられる』という言葉にそむいた愚かさの生きた実例となった。彼の高い地位も、彼の長年の奉仕も、彼がその治世の晩年を汚し、天の刑罰をもたらした僭越の罪を許す口実となることはできなかった。」（国と指導者上巻 269）

「主は人々をご自分の教会のしかるべき地位に定めてこられた。そしてこのお方は彼らにお定めになった場所から彼らが出ることを望んではおられない。主が彼らにある程度の成功をお与えになるときに有頂天になって、適性がなく、また神の召してこられなかった働きをなす資格があると考えてはならない。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1900 年 8 月 14 日）

b. 神は誇りをどのようにご覧になりますか（箴言 6:16, 17; ヤコブ 4:6）。

「なにか大きい罪を犯したものは自ら恥じ入り、卑しさを感じ、キリストの恵みの必要を感じるが、高慢なものはなんの必要も感じないため、キリストに対して心を閉じてしまい、キリストが来られて、与えようとなる無限の祝福を受けることができないのである。」（キリストへの道 35）

「誇り、自信、世への愛着、あら捜し、辛らつき、妬みはキリストの宗教を告白する多くの人々の結ぶ実である。彼らの態度はキリストのご品性と著しい対照をなしている。……このような改心とキリストは何の関係もない。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1902 年 4 月 15 日）

5. 結果に直面するか、献身を選ぶか

- a. イザヤが預言者として仕えるために召された当時、イスラエルとユダに蔓延していた状態を述べなさい（イザヤ 1:1-9, 21-23）。

「ウジヤの治世は終わりに近づき、ヨタムは、すでに、多くの国事の重荷を負っていた。その時、まだ若かったけれども、王族の出であったイザヤは、預言者の務めに召されたのである。……神の保護は取り去られつつあった。そして、アッスリヤの軍勢は、今にもユダの国をのみつくそうとしていた。

しかし、圧倒的と思われた外部からの危険は、内部の危険ほど重大なものではなかった。主のしもべに、最も大きな困惑と最も深刻な失望を与えたのは、神の民のかたくなさであった。」（国と指導者上巻 269, 270）

- b. 当時と今の忠実な者たちの窮状を、何が要約していますか（詩篇 11:3）。

「圧迫と富が増し加わるにつれて、誇りと虚飾を愛する心が起こり、酒に酔い、酒宴にふけた。……各階層に邪悪な風習が広く行きわたっていたので、神に忠実であったわずかな人々は、誘惑に負けて気落ちし、失望落胆に陥るのであった。」（同上 270, 271）

「他の人々が地上の楽しみを熱望している一方で、あなたがたは神の愛のまぎれもない確証を熱望し、真剣に熱心に次のように叫びなさい、だれがわたしに、いかに自分の召しと選びを確かにするかを示してくれるであろうか。」（教会への証 2 巻 145）

個人的な復習問題

1. 何が神の教会の信仰を衰退させる原因となりますか。
2. ウザの在世中、一見小さいと見える過失を一つあげなさい。
3. なぜ神は誇りをこれほど嘆かわしい罪だとみなされるのですか。わたしたちはどうですか。
4. ユダの表面的な繁栄は、ついに国家として彼らにどのような影響を及ぼしましたか。
5. 墮落の時代において、神のわずかな忠実な人々は、何を悟る必要がありますか。

改革の機は熟す

「その日、七人の女がひとりの男にすがって、『わたしたちは自分のパンをたべ、自分の着物を着ます。ただ、あなたの名によって呼ばれることを許して、わたしたちの恥を取り除いてください』と言う。」(イザヤ 4:1)

「わたしたちは自分自身の方法、自分自身の計画、自分自身の考えに執着すべきではない。わたしたちの思いが新たにされることによって造りかえられ、何が善であり、神に受け入れられ、かつ全きことであるかをわきまえ知ることができるようにすべきである。」(上を仰いで 218)

推奨文献： 教会への証 1 巻 216-220; 同上 4 巻 628-648

日曜日

7月3日

1. 利己的な食欲

- a. ウジヤの息子であるヨタムが、自分の父親の死に先立ってより大きな責任を取り始めた時の、ユダの状態はどのようなものであったか述べなさい(列王記下 15:34, 35; ホセア 10:13; 11:7)。

「国々の間で光を掲げる者として立つべき者が、背信と反逆によって、神の刑罰を招いていた。北王国の速やかな滅亡を来らせていた多くの罪惡、そして、ホセアやアモスが明白な言葉でそのころ告発したばかりの罪惡が、急速にユダ王国を腐敗させていた。」(国と指導者上巻 270)

- b. 物質的な財産—神から与えられたもの—は、どのように管理されていましたか(イザヤ 3:14, 15; 5:8; 10:1, 2)。

「国民の社会情勢の展望は、特に失望的であった。人々は、利益を追求し、家に家而建て連れ、田畑に田畑をまし加えていた(イザヤ書 5:8 参照)。正義はゆがめられ、貧者に対するあわれみは示されなかった。……弱者を保護することが義務であった長官たちでさえ、貧者や困窮者、寡婦やみなしごの叫びに耳を傾けなかった。」(同上)

2. 青年の誇り

- a. 圧政を伴う見せびらかしの誇りと愛着の結果、何が訪れると、神は宣言なさいましたか（イザヤ 2:11, 12; 箴言 29:23）。

「心の誇りは、品性の恐るべき特質である。『誇りは滅びに先立つ』。これは家族において、教会において、そして国家において真実である。」（教会への証 4 巻 377）

「自己満足と自信を感じ始める瞬間、わたしたちには不面目な失敗の危険がある。」（この日を神と共に 277）

- b. イザヤはどのような状態を預言しましたか。そしてそれは裁判権にどのように影響を与えましたか（イザヤ 3:4-6, 12）。わたしたちは今日のこの破滅的な潮流をまぬかれるために、どのように確実に自分の子供たちを正しく訓練することができますか。

「親は一般的に自分の子供たちに対して正しい道を取っていない。彼らは彼らを抑制すべきほど抑制していない。かえって、彼らが誇りにふけり、自分自身の傾向に従うがままに放っている。昔は、親の権威が敬われていた。かつては子供たちは親に従い、彼らを畏れ、敬意を払っていた。しかしこの終わりの時代には、この秩序が逆になっている。ある親は自分の子供たちに従っている。彼らは自分の子供たちの意思に逆らうことを恐れており、そのために彼らに譲る。しかし、子供たちが親の屋根の下にいて、彼らに依存している限り、彼らは自分の親の支配下にあるべきである。親は決意をもって動き、自分たちの正しいとみる見解に従うよう要求すべきである。」（教会への証 1 巻 216, 217）

「ご両親がた、家庭を自分の子供たちにとって幸せなところにしなさい。それは、彼らを甘やかすようにという意味ではない。彼らは甘やかされるほど、ますます扱いにくくなり、彼らが世に出るときに、真実で高尚な生活を送ることがますます難しくなる。もしあなたが彼らのやりたいようにすることを許すならば、彼らの品性の純潔さと麗しさはすみやかに消えていく。彼らに従うことを教えなさい。彼らにあなたの言葉を尊重すべきことがわかるようにしなさい。これは彼らに今は小さな不幸をもたらすように見えるかもしれないが、彼らは将来の多くの不幸から救うことになる。家庭の統治が公正で正しく、愛と憐れみに満ち、かつ堅固で真実であるようにしなさい。一つの不敬な言葉や不従順な行為も許してはならない。」（サインズ・オブ・タイムズ^{*} 1903 年 4 月 8 日）

「母親はどんな場合でも、子供につけこまれるようなことがあってはならない。」（家庭の教育 299）

3. 派手さと豊満な魅力

- a. イザヤの時代にシオンの女に対して主が嫌悪されたことをいくつか挙げなさい(さらに見解を得るためには聖書辞書を用いること)(イザヤ 3:16-23)。

「みえを飾りたいという欲望から、ぜいたくの気風が生じ、多くの若い人々の心からは高貴な生活への抱負が減びてしまう。教育を求めることをしないで、彼らは衣服への欲望を満たす金をかせぐために年少の時から何かの職業に従事する。そうしてこの欲望のために多くの若い女性が、道に迷って滅びるのである。

礼拝の日や行事でさえも流行の支配から免れることはできない。……教会はまるで展覧会場となり、説教よりも流行の研究がはじまる。」(教育 292)

「至るところにうぬばれと虚栄が見られる。」(家庭の教育 467)

「わたしたちの民のうちで背教している者は少なくない。彼らは世の流行を模倣している。彼らの霊性は死につつある。一步一步、世を愛する方へ近づいていっている。利己心と誇りが彼らをとりえ、神の愛は彼らの心の中にほとんど場所がない。かつては熱心な改革者であった人々が今は無関心である。かつては単純な衣服を着ていた姉妹たちが今は流行に順応している。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1904 年 11 月 17 日)

- b. 挑発的な衣服を身に着けると対照的に、クリスチャンは何を着るべきですか(テモテ第一 2:9; ローマ 13:14)。

「あなたがたはもし望むならば命と救いを選ぶことができる。あるいは、自己を押し、自分の恩恵期間という尊い時間を、身なりを魅力的にし、世俗的な人や好色家の目を喜ばせ、偽りの唇からお世辞を受けて、ついには自分がまいてきた取穫一滅びを刈り取るために捧げることもできる。」(神の娘たち 121)

「真のクリスチャンはその会話において高められている。そしておろかなお世辞にまで身を落とすことは罪であると信じているが、彼らは礼儀正しく、親切で、好意的である。彼らの言葉は誠意と真実の言葉である。彼らは自分の兄弟たちや世の人々への対応において忠実である。彼らは自分の衣服においてぜいたくや見せびらかしを避ける。しかし、彼らの衣服はつつましく、その人を秩序と良い趣味をもって整える。」(クリスチャンの節制と聖書の衛生 87)

4. 代わりにより高い召しを選ぶ

- a. 見せびらかして挑発的な着衣の習慣を教会から取り除かなければ、どのような深刻な結果がわたしたちの霊性にもたらされることになりますか（イザヤ 3:24-26; マタイ 5:27, 28）。

「衣服への愛着は、道徳者を危険に陥れ、女をつつましさと真面目さの特徴を持つクリスチャン女性とは反対のものにする。見せびらかしてぜいたくな衣服はあまりにもしばしば、着ている者の心にある欲を助長し、見る者の心の中に低俗な情欲を目覚めさせる。」（教会への証 4 巻 645）

「流行がわたしたちの民の知性を低下させ、霊性を食い尽くしている。流行に従うことが、わたしたちのセブンスデー・アドベンチスト諸教会の中に蔓延しており、他のどの力よりも神からわたしたちの民を引き離すために多く働いている。わたしはわたしたちの教会の規則が非常に不十分であることを示されてきた。衣服における誇りの現れはみな、神のみ言葉の中で禁じられており、教会からの除名の十分な理由となるべきである。もし警告や訴えや嘆願を目の前にしながら、なおゆがんだ意思に従い続けるならば、それは心がまったくキリストに同化していない証拠とみなすことができる。自己、そして自己だけが、崇拜の対象なのである。そしてそのような自称クリスチャンは多くの人々を神から迷い込ませる。

わたしたちの上に民として恐るべき罪がある。それはわたしたちが教会員にその信仰と矛盾した方法で衣服を着ることを許してきたことである。わたしたちは直ちに立ち上がり、流行の魅惑に対して戸を閉じなければならない。そうしないかぎり、わたしたちの諸教会は墮落する。」（同上 647, 648）

- b. わたしたちの青年たちに与えるべき訓練を述べなさい（テトス 2:3-6; ペテロ第一 3:1-4）。

「女性の真の魅力は、容姿の美しさとか、なんらかのたしなみを身につけているとかいうことだけにあるのではなくて、むしろ、柔和で穏やかな精神、忍耐、心の広さ、親切、そして他の人々のために喜んで尽くし、耐えることのうちにあるということ、女の子たちに教えてやらねばならない。女の子たちは、仕事をする、何か目的をもって生活すること、神に信頼し神をおそれること、そして父母を敬うことを教えられねばならない。そうすれば、年と共に少女たちはいつそう清らかな心をもって育ち、自主的で、人々から愛される者となっていく。このような女性を墮落させることはできない。多くの人々を滅ぼした試練や誘惑を、彼女は免れる。」（家庭の教育 134）

5. 名によって呼ばれる—あるいは救い主によって改心する？

- a. イザヤの時代もわたしたちの時代にも、霊的に潜むどの危険が神の民を悩ませてきましたか（聖書の象徴では、「7」は完全を意味し、「女」はしばしば教会を言及していることに留意してください—エレミヤ 6:2）（イザヤ 4:1）。神の答えは何ですか（イザヤ 55:8, 9）。

「わたしたちはより高い標準に達しなければならない。さもなければ、わたしたちはクリスチャンの名にふさわしくない。」（教会への証 5 巻 605）

「クリスチャンの戦いは、自己放縱の世俗的な者として、ほしいままに食べたり、飲んだり、着たりする生活ではない。主なるイエスは人の性質のうちにわたしたちの世に来られ、わたしたちの生活がどのようになるべきかを示す模範としてご自分の尊いご生涯を残してください。このお方は、霊的な放縱ではなく、絶えずわたしたちの前にある自己否定と自己犠牲の生活の見本である。わたしたちにはわたしたちの型なるキリストが与えるために来られた正しい見解がある。わたしたちの前には、天の君、神の御子がおられる。このお方は王冠と王衣をわきへおき、わたしたちの世に病を知っている悲しみの人としての立場を取られるために来られた。それを把握する人がどれほど少ないことであろう！」（上を仰いで 217）

- b. クリスチャン信仰の命にかかわる柱を説明しなさい（ルカ 9:23-26）。

「わたしたちには維持すべき品性がある。そしてそれはキリストの品性である。……わたしたちが自己に死に、新たに生まれるのを主が助けてくださり、それによってわたしたちのうちに、生きた活動する原則、わたしたちを聖く守る力なるキリストが生きてくださるように。」（今日のわたしの生涯 335）

「自己が死ぬようにしなさい。あなたの意思を明け渡し、今、たった今、自己に死になさい。そして神にあなたの道をあなたのために開いていただきなさい。」（この日を神と共に 323）

個人的な復習問題

1. なぜ地上の繁栄はしばしば神の民にとってのろいであり、わなののですか。
2. わたしたちは親として、どのように自分の子供たちを導き、養育することにおいて改善することができますか。
3. 霊的な弱さのしるしを示す、衣服の空しい局面をいくつか挙げなさい。
4. わたしたちは青年たちを、どのようにさらに聖なる好みとさらに純潔な思いに導くことができますか。
5. わたしはどのような方法（道）において、神に明け渡す代わりに、自分の意思を通していますか。

現実直面する

「その時わたしは言った、『わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから』。」(イザヤ 6:5)

「イザヤは他の人々に、その背信と神からの分離のゆえに災いを宣告していた。彼はほとんど失望するばかりであり、自分が『汚れたくちびるの民』の中に住んでいることを鋭く感じていた。しかし、今彼は自分自身が危険の中にいることを知った。彼自身が、『汚れたくちびるの者』なのである。彼には自分を高める気持ちはなかった。ああ、彼自身の知恵において、彼はなんと小さかったことであろう、なんと無価値であり、なんと神聖な奉仕にふさわしくなかったことであろう。」(ハイヴル・エコ - 1895 年 9 月 9 日)

推奨文献： 教会への証 5 巻 217-235

日曜日

7月10日

1. 他の人々を希望のない者として見る

- a. 神の民だと公言する人々のうちに大いなる悪を見たならば、イザヤが感じたはずの気持ちを、他の人々はどのように表現してきましたか (詩篇 94:3, 4; エレミヤ 4:14)。

「イスラエルに対する神の目的は、失敗したかのように思われ、反逆した国家は、ソドム、ゴモラと同様の運命に陥るかのように思われたのである。

ウジヤの治世の晩年のこうした状態の下で、イザヤが、神の警告と譴責の使命をユダに伝えるように召されたときに、その責任を回避しようとしたのは驚くに当たらない。彼は、かたくなな抵抗に会うことをよく知っていた。彼が、事態に当面する自己の無能と彼が働きかけなければならない人々のかたくなさと不信とを考えたときに、彼の任務は、絶望的に思われるのであった。彼は、失望して、その任務を放棄し、偶像礼拝をなすがままにユダを放任しておくべきであろうか。ニネベの神々が天の神に反抗して地を支配するのであるだろうか。

イザヤは、神殿の門に立っていたときに、このようなことを考えたのであった。」(国と指導者上巻 271)

2. 生涯を変える一瞬

a. イザヤは宮の前に立っていたとき、幻の中で何を見ましたか（イザヤ 6:1-4）。

「すると、突然、神殿の門と内の幕が引き上げられるように思われ、預言者の足でさえはいってはいらない至聖所の中を見ることを許された。彼の前に主の幻があらわれ、主が高くあげられたみくらに座し、その栄光の衣のすそが神殿に満ちているのを見た。み座の両側には、セラピムが立ち、うやうやしくその顔をおおって創造主の前で務めを行い、『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満つ』と声を合わせて厳粛に歌っていた。その呼ばわっている者の声によって敷居の基が震い動き、神殿の中に賛美が満ちた（イザヤ 6:3）。（国と指導者上巻 271）

「〔イザヤ〕は自分が神の栄光を見る前に、自分が無価値だと思ったであろうか。否、彼は自分が神のみ前に義なる状態にあると思っていた。」（レビュー・アソッド・ヘルト 1889年6月4日）

b. この幻を見ているときに、突然、イザヤが自分自身について持っていたイメージに何が起こりましたか（彼はすでにイスラエルに対する譴責のメッセージを伝えていたことに留意してください）。（イザヤ 6:5）。

「イザヤが、この主の栄光と威光の啓示を見たときに、彼は、神の純潔さと神聖さとに圧倒された。彼の創造主の無比の完全さと、自分も含めてイスラエルとユダの選民の中に長い間数えられていた人々の罪深い行いとの間には、なんと大きな相違があったことであろう。」（国と指導者上巻 271, 272）

「イザヤは他の人々の罪を宣告してきた。しかし、今や彼は他に人々に宣告してきたのと同じ有罪宣告に自らがさらされているのを見る。彼は自分の神の礼拝において冷たく命のない儀式に満足してきた。彼は主からこの幻が与えられるまで、このことを知らなかった。聖所の神聖さと尊厳とを眺めたときに、自分の知恵やタラントはいかに小さく見えたことであろう。彼はなんと無価値なものであったことだろう！聖なる奉仕になんとふさわしくなかったことであろう！自分自身についての彼の理解は次の使徒パウロの言葉で表現できるであろう、『わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。』（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1139）

3. 時にかなった召し

a. イザヤの時代と同様に、今日大いに必要とされているものは何ですか (ヨエル 2:12, 13)。

「厳密な心の吟味が必要とされている。涙と心砕かれた告白をもって、わたしたちは、このお方がわたしたちに近づいてくださるように神に近づく必要がある。」(伝道 510)

「徹底的な悔い改めと、わたしたちの救い主イエス・キリストを信じる信仰、油断のない見張り、絶えざる祈り、そして勤勉な聖書の探求がなければならない。」(原稿冊 8 巻 338)

「魂の聖所の中に純潔で汚されていない宗教が持ち込まれなければならない。各人になすべき働きがある。友人も牧師もその人のためにそれをなすことはできない。各人が自分自身で悔い改め、自分の罪を神に告白しなければならない。それを徹底的にきなさい。自分で信じなさい。自分で自分の心のうちに神の恵みを持ちなさい。神はすべての人生の歩みにおいて、ご自分の恵みの力を証するご自分の真実で忠実な証人を持っておられる。彼らは身分が低いかもしれないが、神のみ顔の日光のうちに生き、聖書を自分の導き手とする。

調べなさい、ああ、あなたの義務をどこでなおざりにしてきたか、またどこであなたが信者にも未信者にも、神から離れさせ、義と真理の御霊から導き出すような模範を残してきたかを調べなさい。イエスは人がご自分の許へ来て、ご自分に信頼し、ご自分により頼み、そして彼らの経験がご自分の上にもみ築かれることを望んでおられる。」(ビュー・アンド・ヘルド 1888 年 12 月 18 日)

b. 神はご自分に従う者たちに、どのような経験を望んでおられますか (箴言 4:18)。

「主はあなたにもっと高く上り、もっと聖なる標準に到達するようにとお命じになる。あなたは今まで思い及びもしなかったほど、はるかに深い経験を持たなければならない。……イエスに心の最上のそして最も聖なる愛情を捧げなさい。すべての光線を宝として大事にきなさい。神を慕う魂の願いをみな心の中で大事にしていなさい。霊的な思想と聖なる交わりという教養を自らに与えなさい。あなたはこのお方の栄光の最初の夜明けの光線を見たに過ぎない。あなたが主を知ろうと切に求めるとき、このお方があしたの光のように必ず現れ出るのを知るようになる。……わたしたちの罪を悔い改め、それらを告白し、許しを見出したのち、わたしたちが完全な福音の信仰という真昼の輝きに至るまでキリストから学び続けなければならない。」(教会への証 8 巻 317, 318)

4. ああ、わたしたちの目が開かれるならば！

- a. わたしたちの悔い改めの必要は、どれほど遠くの範囲にまで及んでいるかを説明しなさい（ヨエル 2:15-17）。

「多くのキリストの牧師は、断食を聖別し、厳粛な集会を招集し、神を見出すことができるうちに求めなさい。あなたが今カルバリーの十字架のもとに横たわっているときに、このお方を呼び求めなさい。諸教会の代表的な保護者としてのあらゆる誇りを脱ぎ捨て、門と祭壇の間で泣きなさい。……祈りなさい、ああ、神の御霊の注ぎのために祈りなさい！」（*エレゲッド・メッセージ* 3 卷 189）

「自分の魂を自己満足のうちに引き上げる代わりに、牧師や民は自分の罪を神のみ前に、そして互いに告白しているべきである。」（同上 390）

- b. わたしたちはみなこの厳粛な働きにおいて、何を理解する必要がありますか（ローマ 3:9-12）。

「あまりにも自分たちの間で比べ合い、確かで誤ることのない型となるお方がおられるときに、哀れで過ちを犯しがちな死すべき人間を見本とすることが多すぎる。神の民は自らを、世によって、あるいは人の意見によって、あるいはかつて真理を奉じる以前に自分がどのような者であったかによって測るべきではない。そうではなく世にあつて今ある彼らの信仰と立場は、もし彼らの歩みがキリストの信徒だと公言して以来、絶えず前に上に進んできたならばどのようなになっていたはずであるかその信仰と立場をもって比較しなければならない。これがなすことのできる唯一安全な比較である。他はみな、自己欺瞞となる。もし神の民の道徳的な品性と霊的な状態が、自分たちに授けられてきた祝福、特権、光に見合わなければ、彼らは秤で計られて足りないことが見いだされる。天使たちは、「足りない！」という報告をするのである。」（*レビュー・アンド・ヘラルド* 1886 年 8 月 31 日）

「わたしたちは他人のあやまちや短所のようなかすを食べて生きているわけにはいかない。悪口には二重の災があつて、聞く者よりも語る者に害を及ぼすことが大きい。不和や争いの種をまき散らす人は自分の心にその恐ろしい実を刈りとる。他人の中に悪をさがす行為そのものが、そうする人の中に悪を育てあげる。他人の短所に心をとめることによって、それと同じ姿に変化していく。しかし、イエスをながめ、その愛と完全な品性について語るとき、わたしたちもそのみ形に変わり、イエスがわたしたちの前に示された高い理想を思い、考えることによって純潔な聖なるふんいきにまで向上する。」（*ミストリー・オブ・ヒーリング* 477, 478）

5. 悔悟と清め

- a. かつてなかったほどイザヤの心が低くされたとき直ちに、天の神は、ご自分のしもべのために何をなさいましたか（イザヤ 6:6, 7）。わたしたちはこのことから何を学ぶべきですか。

「イザヤに〔6 章で〕与えられた幻は、終わりの時代の神の民の状態を表している。彼らは信仰によって天の聖所で進められている働きを見る特権が与えられている。『そして、天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契約の箱が見えた』。信仰によって、至聖所の中を見、天の聖所におけるキリストの働きを見ると、彼らは自分たちが汚れたくちびるの民—くちびるがしばしば虚しいことを語り、タラントが聖化されず、神の栄光のために用いられてこなかった民—であることに気づく。彼らが自分自身の弱さと無価値さを、キリストの栄光に満ちたご品性の純潔さと麗しさと対比するとき、彼らが絶望するのをもつともである。しかし、もし彼らがイザヤのように、主が心に残すようにと意図された印象を受けるなら、もし彼らが自分の魂を神のみ前にへりくだらせるなら、彼らのために望みがある。約束の虹は御座の上にある。そしてイザヤのためになされた働きは、彼らのうちでなされるのである。神は悔いた心から上る嘆願に答えてくださる。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 4 卷 1139）

- b. 何がわたしたちの日ごとの祈りとなるべきですか（詩篇 51:2, 7）。

「自分がもっと善良になり、神の前に出るにふさわしい者となるまでは、キリストに近づくべきではないという敵のささやきに耳を傾けてはならない。それまで待っているとすれば、いつまでも主のところに来ることはできない。」（キリストの実物教訓 186）

個人的な復習問題

1. 宮の幻の前は、イザヤは自分自身や他の人々に対して、どのように感じていましたか。
2. 天の栄光の幻は、どのように預言者の態度を変えましたか。
3. 今日、わたしたちすべてのものがなす必要のある働きを述べなさい。
4. わたしたちはあらさがしをする者となるとき、何が起こるかを説明しなさい。
5. イザヤに与えられたどの確証が、すべての悔いる魂にまでこだましてきましたか。

義のために論じる

「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ 1:18)

「〔イエス〕は人の罪を知っておられる。このお方は彼らのすべての行為を知り、彼らの秘密の動機を読まれる。しかしなお、このお方は彼らをその悪のうちに留まらせたまま立ち去って行かれない。このお方は罪びとに嘆願し、論じ、そして一つの光景―ご自身に人類の弱さを負われるという光景―のうちに、ご自身を罪人の地位に置かれるのである。」(教会への証 4 巻 294)

推奨文献： キリストへの道 22-52

日曜日

7月17日

1. 心からの意志

- a. 天の聖所の幻を見た後、新たに罪から清められて、神の召しに対するイザヤの反応は何でしたか (イザヤ 6:8-10)。

「預言者〔イザヤ〕は、自分の前の働きのために元気づけられた。この〔天にある宮の〕幻の記憶は、彼の長く困難な使命の間中、彼と共にあった。」(教会への証 5 巻 751)

- b. 今日、神の訴えにわたしたちもまた、どのように応えるべきですか (ヘブル 3:12-15)。

「天使たちは長い間、人間の代理人―教会員―が、なすべき大きな働きにおいて自分たちと協力するのを待ってきた。彼らはあなたを待っているのである。」(同上 9 巻 46, 47)

「すべての人にすべきことがある。真理を信じるすべての魂は、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」と言って、自分の分と立場に立つべきである。」(同上 6 巻 49)

2. 知的に論じる

- a. 神がどのように、またなぜわたしたちに論理的に嘆願されるのか説明しなさい（イザヤ 1:18）。

「主はご自分の民が自分の理性を用いること、そして印象のために理性を捨てることがないよう要求される。このお方のみ働きはすべての神の子らにとって理解できるものである。このお方の教えは、それ自体が知性の理解力に訴えるものとなる。それは思いを高めるように意図されている。」（教会への証 1 巻 230）

「キリストはわたしたちの心を買われた。キリストは人間の知性を買われた。キリストは論理的な思考力を買われた。そしてキリストはわたしたちに能力と知力をお委ねになったのである。このお方はわたしたちがこれらの知力や能力を単にこの地上の財産の通俗的なことに用いて、永遠を見失ってしまうことを望まれない。」（説教と講和 1 巻 251）

「人の中の偉大な名は、砂に書かれた文字のようなものである。しかし、しみのない品性は永遠に持ちこたえる。神はあなたに知性と論理的な思考力をお与えになった。それによって、あなたがこのお方のもろもろの約束をつかむことができるためである。そしてイエスはあなたが強く、均整の取れた品性を形成するのを助けようとしておられる。」（神の驚くべき恵み 81）

- b. 福音はどのようにより大きな知的明晰さをもって、わたしたちを祝福しますか（テモテ第二 1:7）。

- c. 心と意思の間には、どのような関係がありますか（ヘブル 10:16; エゼキエル 36:26）。

「新しい心とは何か。それは新しい思いである。では、思いとは何か。それは意志である。あなたの意志はどこにあるか。それはサタンの側か、キリストの側かのいずれかである。さあ、それはあなた次第である。あなたは今日、自分の意志をキリストの側に置くであろうか、それが問題である。これが新しい心である。それは新しい意志であり、新しい思いである。」（説教と講和 1 巻 210）

『わたしは新しい心をあなたがたに与え』という言葉は（エゼキエル 36:26）、新しい思いをあなた方に与えるという意味である。この変化はいつもクリスチャンの義務のはっきりとした観念と真理の理解を伴う。」（両親、教師、そして生徒への勧告 452）

3. 鋭い言葉、深刻な示唆

- a. イザヤはどのような単純な選択を説明するように命じられましたか。またどのような似た選択がわたしたちに与えられていますか（イザヤ 1:19, 20; ヨシュア 24:14, 15）。

「意志は人間の性質における支配力であり、決定の能力すなわち選択の能力である。理性を備えた人間ならだれでも正しいことを選択する能力がある。人生のあらゆる経験において神は「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい」（ヨシュア 24:15）と仰せになっている。だれでも自分の意志を神の意志と一致させ、神に従うことを選び得るのである。このように自分自身を神の力に結合させるとき、われわれは何物によっても悪を強制されることのない境地に立つことができる。どの青年もどの子供も、神の助けによって誠実な品性を形成し、有益な人生を送り得る能力があたえられている。」（教育 340）

「わたしたちは単純な信仰と質問しない従順の価値をどんなに評価してもしすぎることはない。単純な信仰のうちに従順の道に従うことによって、品性は完全を手に入れるのである。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 4 巻 1137）

- b. そのとき、神の民のどの罪が、預言者によって言及されましたか（イザヤ 1:21-23）。

「わたしたちのただ中に存在する嘆かわしい罪は、自己満足である。すなわち、神に対しても、自分の兄弟たちに対しても正しい精神を持つ状態からほど遠いときに、自分たちが義人であり、自分たちのなすことはすべて賞賛に値すると感じるパリサイ主義が存在する。……自尊心が大事にされてきた。そして、あなたがたは、自分が一番でないために、他の人々に対して批判の精神を抱いてきた。妬み、嫉妬、疑い、あらさがし、そして偽証が存在してきた。あなたがたの間に献身していない心があり、彼らは言われたこと、なされたことをすべて、神の特別な指示の下でなされたものでさえ、悪い方へ変えてしまう。……彼らは、一言のために人を罪人にするによって、……敵を喜ばせる。批判されているこれらの多くの場合、実際の罪は存在しないのである。疑いはそれを抱く思いの状態の結果である。だれかが彼らの道を横断すると、彼らにはその人との一致も交わりもない。彼らはその人の言うことすることすべてに嫌気を覚える。……それでいながら、このように離反と不一致を生じさせ、嫉妬の種を植え付けている人々は、その間ずっと真理を固く信じる信徒だと主張するのである。そのような人は真理の精神を実践していない。」（レビュー・アンド・ペナルティ 1888 年 12 月 18 日）

4. 徹底的な知的働き

a. わたしたちが完全な悔い改めを得るために、何が必要ですか（詩篇 119:18）。

「〔ヨハネ第一 3:2, 3 引用〕。ここに人のなすべき働きがある。彼は鏡、すなわち神の律法に向き合い、自分の道徳的品性の中の欠点を識別し、自分の罪を捨て去り、自分の品性の衣を小羊の血で洗わなければならない。……

しかし、福音の望みの感化力は、罪人が神の律法の違反のうちに生き続けながら、キリストの救いを無償の恵みの事柄として見るようには導かない。真理の光が彼の思いに理解され始め、神のご要求を十分に理解し、自分の不法の規模を自覚すると、彼は自分の方法を改革し、自分の救い主から力を得て、神に忠実な者となり、新しくより純潔な生活を送るのである。」（教会への証 4 巻 294, 295）

「みことばを研究するときには、先入観や先天的あるいは後天的な観念を、研究の門口に捨てなさい。自分の意見を擁護するために聖書を研究するのでは真理に達することができない。そうした考えは門口に捨てて、くだけた心ではいつて行き、神がお語りになることばに耳をかたむけなさい。キリストの足もとにすわり、へりくだった心で真理を求め、キリストについて学ぶときに、みことばを理解することができる。聖書研究に自信のある賢い人に向かってキリストは、救いの知恵を得たいならば柔和で心のへりくだった者になりなさいと言われる。

既成観念に照らして聖書を読まないで、偏見を心からとり去って、注意深く祈りのうちに聖書を調べなさい。読んでいて、ある確信に到達し、自分がこれまで抱いていた意見がみことばに一致していないことがわかったら、みことばを自分の意見に従わせようとしてはならない。自分の意見をみことばに一致させなさい。過去の信念や習慣によって理解力が支配されてはならない。心の目を開いて、おきての中から驚くべきことを見いだしなさい。そこに何が書かれているかを見いだし、永遠の岩の上しっかりと立ちなさい。」（青年への使命 256, 257）

b. わたしたちの罪から離れるという決心は、どのようにネヘミヤ時代の大改革を彷彿（ほうふつ）とさせるものとなるべきですか（ネヘミヤ 4:6（下旬））。

「ああ、悔い改めと改革の日を、だれも延ばすことがないように！今こそ、恵みのときなのである。」（サインズ・オブ・タイムズ 1894 年 7 月 30 日）

4. 本物の調和を先に味わう

- a. わたしたちが地上歴史のこの時代に生きているために、キリストがわたしたちのう
ちに見たいと望んでおられる熱心な悔い改めの深さを述べなさい(黙示録 3:19)。

『『残りの民のために、大いなる働きがなされなければならない。彼らの多くは、小さい試練に心を奪われている』。天使は、また言った。『悪天使の軍勢が、あなたがたの回りにいて、あなたがたをわなにかけて捕えるため、その恐ろしい暗黒を忍びこませようとしている。あなたがたは、準備の働きと、この最後の時代のために何よりも重要な真理から簡単に心をそらせてしまう。そして、あなたがたは、小さい試練に心を奪われている。そして、ちょっとした困難の細かな点まで、だれかれの満足を得るために説明しようとしている』。両者の心が恵みによって和らげられていない時には、関係者間の話し合いが何時間も続き、彼らの時間だけでなく、それを聞くために引き留められた神のしもべたちの時間も浪費されるのである。もし、誇りと利己心が取り除かれれば、たいいてい問題は、五分間で解決する。』(初代文集 222, 223)

「キリストは来られる。わたしは自分たちが 1844 年に終わりが来ると思っていたときのことを思い出す。そのとき、わたしたちは集会に共にあつまり、互いに質問するのであった。『兄弟よ、何かわたしのうちに正しくないことを見ることがありますか？ わたしは人が自分自身の過ちを見ることができないことを知っています。ですから、兄弟のだれかがわたしのうちに何か悪いことを認めるなら、それらをわたしに話していただきたいのです』。時に、過ちが告白された。そしてわたしたちは神のみ前にひざまずき、このお方の許しを求めるのであった。そのとき、あなたは何か問題のある兄弟が、彼らだけでどこか納屋や果樹園へ行き、共に神に嘆願しているのを見るであろう。それから、彼らは腕を組み、互いに愛しながら戻ってきて、彼らの間は平和になるのであった。わたしたちはすべてが調和のうちにない限り、別れることはできないと感じた。芳しい平和の精神がわたしたちのただ中にあり、そして神の栄光がわたしたちを取り囲んでいた。顔が輝いているのを見ることができた。」(説教と講和 2 巻 24)

個人的な復習問題

1. なぜ、わたしたちは神の召しを受け入れるイザヤの熱心さに元気づけられるのですか。
2. 真のキリスト教は人の思いのために何をなしますか。
3. 真の悔い改めは、どのように互いの関係を変えますか。
4. わたしたちが自分の聖書研究において真の成長に成功することができる鍵を説明しなさい。
5. 初期のアドベンチスト信徒たちから、わたしたちはどの経験を繰り返すと良いのですか。

わたしたちの憐れみ深い御父

「強く声をあげよ、声をあげて恐れるな。ユダのもろもろの町に言え、『あなたがたの神を見よ』と。」(イザヤ 40:9)

「イザヤは、神をすべてのものの創造主として高めた。ユダの町々に対する彼の使命は、『あなたがたの神を見よ』であった(イザヤ 40:9)。」(国と指導者上巻 280)

推奨文献： キリストの実物教訓 130-144

日曜日

7月24日

1. 平和な潜在的な希望

- a. イザヤは自分の受け入れた召しの中に、何を予期するように告げられましたか(イザヤ 6:9-12)。それにもかかわらず、どのような確証を彼は心に抱くべきでしたか(イザヤ 6:13; 10:20, 21)。

「道を誤ったユダの人々に対して[イザヤ]が感じた魂の重荷は、むだではなかった。彼の任務は、全然実を結ばないというのではなかった。……彼は、その一生を通じて、忍耐強く勇敢な教師となり、破滅の預言者であると共に、希望の預言者でなければならなかった。ついに、神のみこころはなしとげられ、彼の努力がすべて実って、神のすべての忠実な使命者たちの働きの結果が現れる。残りの者が救われる。」(国と指導者上巻 273)

- b. 預言者が強調した鍵となる概念のいくつかを挙げなさい。そしてなぜ、そのような向上させる主題は、わたしたちに希望を与えるのですか(イザヤ 40:9, 13-15, 21-31)。

「星もまたひとりびとりの人間にはげましの言葉をささやいている。心が疲れはてたり、試練が重苦しくのしかかったり、障害にうち勝つことができないように思えたり、人生の目的を遂げることができないようにみえたり、人生の美しい希望が、みかけ倒しに思われたりなど、だれでも経験するこのような時に、神は、星に教訓を学べと仰せになっている。何ものにもわずらわされことなく一定のコースをたどる星から、われわれは、勇氣とゆるぎない心とを学ぶことができる。」(教育 123, 124)

2. 雲の向こうの心

- a. 世の歴史を通じて、神のご品性に対するどの誤解がいつも明らかにされる必要がありましたか (エゼキエル 18:25; イザヤ 55:8, 9)。

「イザヤの時代には、神について誤った解釈がなされ、人類の霊的理解は暗かった。サタンは、長い間、創造主が、罪と苦しみと死の創始者であると人々に思わせてきた。こうして、サタンに欺かれた人々は、神をかたくなで、苛酷なおかたであると考えた。彼らは、神を、罪を非難して宣告を下すために目を見張り、援助せずともよい正当な理由がある限り、罪人を快く受け入れないもののように考えた。天は、愛の律法に支配されているのであるが、大欺瞞者はそれを人類の幸福を束縛するもの、重苦しいくびきであると誤表し、人類は律法から解放されることを喜ぶべきであると言った。戒めは守り得ないもので、罪に対する罰は、独断的に与えられたものであると彼は言った。

イスラエルの人々が、主の真のご品性を見失ってしまったことは、全く弁解のしようがないことであった。神は、しばしば、ご自分を、『あわれみと恵みに富み、怒りをおそくし、いつくしみと、まこととに豊かな神』として人々にあらわされた』(詩篇 86:15)。(国と指導者上巻 276)

- b. わたしたちは神についてのどの本当の事実をあまりにも忘れがちですか (イザヤ 49:13-16)。

「神の愛を疑い、神の約束に信頼しないならば、神をはずかしめ、聖霊を悲しませるのである。たとえば、母親が子供の幸福と慰めのためあらゆる努力を尽してきたにもかかわらず、子供らは、いつこうにそのようなことには気もとめず、不平ばかり言うならば母親はどう感じることであろう。もし子供たちが母の愛を疑ったとしたならば、母親はどれほど悲しむことであろう。どんな親でも、子供からそのように扱われるならば、どういう気持がするであらう。それと同様に、天の父もわたしたちにいのちを与えるためにひとり子を賜ったその愛をわたしたちが信じなかったならば、わたしたちをどのように思われるであらうか。使徒は『ご自身のみ子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、み子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか』(ローマ 8:32)と言っている。けれども、口で言わなくても、その行いで、『神はわたしにこう言っておられるのではない。多分、神はほかの人々を愛したもうかもしれないが、わたしを愛したもうていないのではない』と言っている人がどれほど多くいることであろう。

こうしたことはすべて、あなた自身の魂に害を及ぼす。というのは、疑いの言葉を出せば、それはみな悪魔の誘惑を招くことになるからである。そして、それはあなたのうちに疑いへの傾向を強め、奉仕の天使を悲しませるのである。であるから、悪魔に試みられる場合には、ひと言も疑いや暗い言葉を言ってはならない。」(キリストへの道 164, 165)

3. 愛の招き

- a. イザヤは神の迷い出た民に対する神のご計画を、どのように表しましたか（イザヤ 41:14; 48:4, 8-11）。

「無限の愛の神は、自力ではサタンのわなから逃れることができないと考えている人々を助けたいと切望しておられる。そして、神のために生きる力を与えようと恵み深くも仰せになっている。……

ユダの住民はみな無価値な人々であつたが、神は、彼らをお見捨てにならなかった。彼らによって、神のみ名が異邦の人々の間で高められなければならなかった。神の属性が何であるかを全く知らないでいる多くの人々が、なお、神の品性の栄光を見なければならなかった。神が、神のしもべたちである預言者たちを送って、『あなたがたはおのの今その悪の道と悪い行いを捨てなさい』と言わせられたのは、神の恵み深いみこころを明らかにするためであつた（エレミヤ書 25:5）。……

悔い改めの招きは、誤ることのできない明確さをもって発せられたので、すべてのものは、立ち返るように招かれたのである。」（国と指導者上巻 281）

- b. もしわたしたちが受け入れさえすれば、わたしたち一人ひとりに、どの栄光に満ちた保証が与えられていますか（イザヤ 55:6, 7; 44:21, 22）。

「読者よ、あなたは、自分勝手な道を選んだであろうか。あなたは、神から遠くさ迷い出たであろうか。あなたは、罪の実を食べようとして、それがあなたのくちびるで灰に変わるのを経験したであろうか。もうあなたの人生の計画は挫折し、希望はうせ去り、ひとり寂しくすわって、惨めな思いにふけっているであろうか。長くあなたに語りかけていたにもかかわらず、あなたが聞こうとしなかったあの声が、紛れもなくはつきりと聞こえてくる。『立って去れ、これはあなたがたの休み場所ではない。これは汚れのゆえに滅びる。その滅びは悲惨な滅びだ』（ミカ書 2:10）。あなたの天の父の家に帰れ。……

あなた自身を善良にし、神に近づくことができるほどに善い人間になるまで、キリストから離れているように言う敵の言葉に耳を傾けてはならない。その時まで待たなければ、いつまでたっても、来ることはないであろう。サタンが、あなたの汚れた衣を指摘するならば、『わたしに来る者を決して拒みはしない』という救い主の約束を繰り返して言え（ヨハネ 6:37）。イエス・キリストの血は、すべての罪を清めるということを敵に告げよ。」（同上 283）

4. 神と互いの前にへりくだれ

- a. お一人の天の御父の子となるために、神がご自分の民に望んでおられる偶像と誇りからの推移を説明しなさい (イザヤ 57:13-21)。

「誇り、あるいは自尊心、あるいは自己義が、自分の罪を告白することを妨げることがないようにしなさい。それは次の約束をわがものと主張できるためである。『その罪を隠す者は栄えることがない、言い表わしてこれを離れる者は、あわれみをうける』(箴言 28:13)。神に対して、何も差し控えてはならない。そして自分の過ちに兄弟が関わっている場合、彼らにそれらを告白することをなおざりにしてはならない。……

過ちに陥っている心が批判を望まないか、あるいはそれ自体罪の告白によってへりくだりの下に服することを望まないことは嘆かわしい事実である。ある人々は自分の過ちを見るが、告白すると自分の尊厳が減じると考え、自分の過ちを言い訳し、告白が魂にもたらす懲罰から自らをかくまう。……彼らは他人の過ちを見るが、いかにして次の助言を与える勇気を得ることができよう。『互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい』。彼ら自身の生活においてこの指示に従っていないのである。牧師や民は、自分たちが喜んで同意できないからといって、わきに押しやっている、あるいはできれば忘れようとしている真理をどれくらい学ぶことができよう。なぜなら、それが彼らの誇りにへつらうことなく、譴責し、痛みを与えるからである。……彼らはキリストの義、聖霊の啓発に飢え渴かなければならない。」(クリスチャン教育の基礎 239, 240)

- b. 主の偉大なご計画にあずかるために、わたしたちはどのようにによりよく聖霊に協力することができますか (イザヤ 59:20, 21)。

「罪を心に抱いてはならない。今は多くの人の愛が冷えていく時であり、あなたの側に何か欠点があれば、他の人を誤った道へ助長し、多くの嘆かわしい不法へと導くことになるかもしれない。なまぬるい模範を残してはならない。神の御霊の証に背を向けてはならない。わたしたちには世に伝えるべき厳粛なメッセージが委ねられている。そして多くが危機に瀕しているのである。この危険な時代にわたしたちを取り囲む誘惑のただ中で、絶えず目を覚まし祈っていなければ、安全ではいられない。わたしたちは聖書の高い品性の標準の代わりに、自分自身の低い標準を受け入れることに対して防備していなければならない。」(福音宣伝者 (1892) 462)

5. とこしえのみ腕により頼む

- a. ユダの住民に与えられたどの恵み深い招きが、今日、わたしたちにまでこだましていますか（イザヤ 27:5）。

「人に罪を犯させ、そのまま、絶望と恐怖の中に放任して、ゆるしを求めることを恐れさせるのは、サタンの特別な策略である。しかし……何を恐れることがあろうか。わたしたちの弱さを助けるための備えは、十分に整っている。そして、キリストに来るようにとのあらゆる招きを与えられている。……

キリストは、わたしたちの身代わりであると同時に保証人となることを約束しておられて、どんな人でもおろそかになさらない。主は人類が永遠の滅びにおちいろうとしているのを見るに忍びず、人類のために死に至るまでご自分の魂を注ぎ出されたのである。主は、自己をみずから救うことができないことを認めるすべての魂にあわれみと同情をよせられるのである。

主はおののきつつ嘆願する者を、必ず助け起こしてください。主は、贖罪によって、つぎることのない道徳的能力をわたしたちのために備えてくださったから、必ずこの力をわたしたちのために用いてください。主は、わたしたちを愛しておられるから、わたしたちは、罪も悲しみもともに主の足もとにおけばよい。」（キリストの実物教訓 136, 137）

- b. イザヤはわたしたちのものとなるべき経験を、どのような言葉をもって描写しましたか（イザヤ 12:1-6）。

「ああ、あなたは何度、救い主のみ顔の美しさに心動かされたことであろう。このお方のご品性の麗しさに魅了され、このお方の苦難を思って和らげられたことであろう。今、このお方はあなたが自分の全体重をご自分にかけることを望んでおられる。」（セレクトド・メッセージ 2 巻 232）

個人的な復習問題

1. なぜイザヤは自分の民に望みをもって奉仕することができたのですか。
2. わたしたちは神についてのよくある誤解によって、どのように欺かれることを避けなければなりませんか。
3. なぜ神はわざわざ誇り高い者や頑固な人々を悔い改めへと招かれるのですか。
4. わたしたちは神に自分の罪を告白するかもしれませんが、ヤコブ 5:16 はどれほど頻繁になおざりにされていますか。
5. サタンの主張にもかかわらず、なぜ神はわたしたちが今週の教科を研究するように望んでおられたのですか。

第一安息日献金

伝道学校と教育プロジェクトのために

「神のみかたちにかたどってつくられた人間のひとりびとりに、創造主の能力に近い能力—個性、すなわち、思考し行動する能力がさずけられている。この能力が発達してはじめて、人は、責任を負う者となり、事業の指導者となり、他人に感化を及ぼす者となる。この能力を発達させること、すなわち青年たちが、ただ単に他人の思想を反映する者とならないで、自ら思考する者となるように、彼らを訓練すること



ことが真の教育の働きである。人が書いたり、言ったりしたことばかりに、生徒の研究を閉じこめないで、彼らを真理の泉、すなわち自然と聖書の中に開かれている広い研究の分野に導かなければならない。人間の本分と運命について、重大な事実を熟考するときに、彼らの心は強くそして大きくなる。学校は、弱々しい知識人ではなく、たくましい思考力と行動力をもった青年、境遇の奴隷とならないで、かえってこれを征服する青年、広い心とはっきりした考え方と強い信念をもった青年—そういう人間を、社会に送り出すことができる。」(教育 6, 7)

教育支部の目的は、このような施設を設立することです。全般的な教育のための学校と、伝道学校は、かつてなかったほど、わたしたちの子供たちのために必要とされています。一世紀以上も前に主の使命者は次のように記しました。「現在都市から出ることのできない人々の子供たちを救い教育するためにもっと多くのことをすることができます。これはわたしたちの最善の努力に値する。教会学校が諸都市に設立されなければならない。そしてこれらの学校と関連して、より高い研究が必要とされているところで、それらを教えるための備えがなされなければならない。」(チャルド・ガダンス 306)

「安息日遵守者が数人集まっているところでは、自分の子供や青年たちを指導することができる全日学校の場所を提供するため団結すべきである。彼らはクリスチャンの教師、すなわち献身した伝道者として彼らを伝道者になるよう導くような方法で子供たちを教育できる人を雇うべきである。……

もし親がこれらの小さな教育センターの重要性を自覚し、主がこの時代になされることを望んでおられる働きをするよう協力するならば、わたしたちの子供たちの敵の計画は挫折させられるのである。」(チャルド・ガダンス 307)

この安息日に世界中のわたしたちのすべての教会において、この働きを支援するため惜しみない献金を捧げて下さるようお願いいたします。

世界総会教育支部の皆さんの兄弟より

同盟による不信

「この民がすべて陰謀ととなえるものを陰謀ととなえてはならない。彼らの恐れるものを恐れてはならない。またおののいてはならない。あなたがたは、ただ万軍の主を聖として、彼をかしこみ、彼を恐れなければならない。」(イザヤ 8:12, 13)

「〔神〕は真理の敵から離れている人々を召しておられる。このお方はご自分のみ働きを前進させる手段を確保するために、たとえそれが機関の建物のためであっても、世俗との共同経営に入ることによって肉の腕という手段に訴えることをしない人々を召しておられる。」(健康に関する勧告 290)

推奨文献： ミニストリー・オブ・ヒーリング 159-177

日曜日

7月31日

1. はなはだしい背信

- a. ユダの王アハズの統治の間、わずかな神の忠実な者が直面した逆境の程度を説明しなさい(歴代志下 28:1-4)。ミカはどのようにこの状況を述べましたか(ミカ 7:2, 4)。

「アハズが王位につくことによって、イザヤとその仲間たちは、ユダ国内において、これまで当面したこともない恐るべき事態に直面することになった。これまで偶像礼拝の習慣の魅力に抵抗してきた人々の多くが、異教の神々の礼拝に参加するように説き伏せられていたのである。イスラエルの君たちは、彼らに負わせられた信任にそむいていた。偽りの預言者が起こって、人々を背信に導く言葉を語った。祭司の中には、価をとって教える者さえあった。それにもかかわらず、背信の指導者たちは、なお、神の礼拝の形式を保持して、自分たちは神の民に属すると主張していた。」(国と指導者上巻 287)

『あなたを導く者はいえ、あなたを迷わせ、あなたの行くべき道を混乱させる』……(イザヤ 3:12)。アハズの治世は、文字どおりにこの通りであった。……

善の勢力は急速に衰え、悪の勢力は増大していた。……」(同上 289)

2. 清くない同盟

- a. アハズの時代の危機の間、神は何を訴えておられましたか（ミカ 6:1-5）。このお方は状況をどのように描写されましたか。そしてそのことについて、何をなさいましたか（イザヤ 28:5-13）。

「神は、どの時代においても、忠実な者のためと同時に、誤りに陥った人々に対する無限の愛のゆえに、反逆者たちを長く忍び、彼らがその悪行を捨てて、神に立ち返るように促してこられたのである。神は、『教訓に教訓、……規則に規則、……ここにも少し、そこにも少し』というふうに、ご自身が選んだ人々によって、罪人に義の道をお教えになった（イザヤ 28:10）。

アハズの時代も、このとおりであった。招きの声が次から次へと誤りに陥ったイスラエルに送られて、主に忠誠をつくすように訴えた。預言者たちは、慈悲深く人々に訴えた。彼らが、人々の前に立って、熱心に悔い改めと改革を勧告したときに、彼らの言葉は実を結んで神の栄光をあらわしたのである。」（国と指導者上巻 289.290）

- b. アハズは預言者の嘆願を無視して自分の偶像礼拝の道を続けていましたが、ついに何が彼を恐れさせましたか（列王記下 16:5）。なぜ神はこれが起こることをお許しになったのですか（歴代志下 29:6-8）。

「もしアハズと王国の主だった人々が、至高者なる神の真のしもべたちであったならば、彼らに対抗して形成されたこのような不自然な同盟に対して、何の恐れも抱く必要はなかった。しかし彼らは、繰り返し罪を犯して、力を失っていた。怒りを抱かれた神の刑罰に対する言いようのない不安にかられて、『王の心と民の心とは風に動かされる林の木のように動揺した』（イザヤ書 7:2)。（同上 294）

- c. この危機の時に、アハズにどのメッセージが与えられましたか（イザヤ 7:4-9）。王はどのように反応しましたか（列王記下 16:6-8）。

「もしアハズが、〔イザヤの〕メッセージを天からのものとして受け入れたならば、ユダ王国は幸福だったことであろう。しかしアハズは、肉の腕に頼り、異邦人の助けを求めることにしたのである。」（同上 294）

3. 最も暗い時の望み

- a. アハズのアッシリヤとの同盟の苦々しい結果から、わたしたちはどの警告を受けるべきですか（歴代志下 28:14-23）。

「アッシリヤに納めた貢ぎ物は、アッシリヤの貪欲心をかき立てた。そして、この反逆的国家は、やがてユダを攻め略奪しようとするのであった。アハズと不幸な国民は、今や残忍なアッシリヤ人の手に完全に陥ってしまうのではないかと恐れたのである。」（国と指導者上巻 294.295）

- b. アハズの背信の最悪な部分は何でしたか（歴代志下 28:24-27）。

「背信した王は、その治世の終わりが近づいたときに、神殿の扉を閉じさせた。聖なる儀式は中断された。祭壇の前に燭台の灯はもはや燃えなくなった。人々の罪のための犠牲は、もはや献げられなくなった。朝と夕方の犠牲を献げるときに、もう香は上にのぼっていかなくなった。神の家の庭を去り、その扉を固く閉ざして、神を敬わない町の住民たちは、エルサレムの至るところの町角に異教の神々の礼拝のための祭壇を、臆面もなく建てたのである。異教の神々の礼拝が、勝利したかのように思われた。暗黒の力は、ほとんど勝ち誇ったのである。」（同上 295）

- c. なぜ同盟はそれほど危険なのですか。そしてわたしたちは残りの民へ向けたイザヤの希望のメッセージから何を学ぶことができますか（イザヤ 8:9-14）。

「ユダの中には、主に忠誠を保ち、偶像礼拝に陥ることを固く拒んでいた人々が住んでいた。アハズの晩年に行われた破壊を見渡したときにも、イザヤ、ミカおよび彼らの仲間たちは、これらの人々に彼らの希望をつないだのである。彼らの聖所は閉じられた。しかし、忠実な人々には、『神がわれわれと共におられる』という確証が与えられた。」（同上 295）

「質問がなされた、あなたが同盟というのはどういう意味ですか、だれが同盟を組んだのですか。あなたは同盟が何であるかを知っている。それは、純潔でまっすぐに揺らぐことのない高潔という印を帯びていない働きにおいて人が団結することである。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 4 巻 1142）

4. 永久的な原則

- a. もし注意を払うならば、どの警告が、現代の真理を支持しない人々と同盟を形成するという過ちから、わたしたちを守りますか（イザヤ 31:1-3）。

「サタンは下からの自分の力をもって、人が光に反し、また神のみ言葉に反する連合や同盟を結ぶようそそのかす。無信仰、法王性、半法王性は、キリスト教を公言する者たちとの緊密で強力な親交のうちにやってくる。靈感を低く見て、人から賢人と呼ばれる人間の知恵を高めることは、神の知恵や型よりも人間のタラントを高く、またいわゆる科学を生きた信心の力よりも高く認識しているということである。これらは終わりの時代のしるしである。」（彼を知るために 345）

「すべての人は、この地上歴史の終末にこれほど広く関わる不法の秘密が何であるかを注意深く探り出すために、知恵を必要としている。神の律法を尊ばない秘密社会や同盟のうちに自らを結びつける世の支配勢力の住民の忌むべき働きの神の啓示によって、真理の光を持っている民はこれらのすべての悪に近づかないようになるべきである。世のすべての偽りの宗教家たちはますます自分たちの邪悪な行いを表す。なぜなら、そこには二種類のグループしかいないからである。すなわち、神の戒めを守る人々と神の聖なる律法に対して戦いを挑む人々である。」（原稿リース 8 巻 322）

- b. 聖書のどの原則が同盟に対して警告していますか（コリント第二 6:14-18）。

「悪人たちは束にまとめあげられつつある。すなわち、あらゆる信用組合に、同盟のうちに結わえ上げられている。これらの組織とは何のかかわりも持たないようにしよう。神がわたしたちの支配者であり、統治者であられるのであり、このお方はわたしたちが世から出て、分離するようにと召しておられる。……もしわたしたちがこれをするを拒むなら、もしわたしたちが世とのつながりを継続し、一つ一つの問題を世俗的な見地から見れば、わたしたちは世に似てくる。世俗の方針と世俗の考えがわたしたちの取引きを支配するとき、わたしたちは永遠の真理という高く聖なる土台の上に立つことはできない。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1142）

「事業連合や世の同盟はわなである。それに入らず、離れていなさい、兄弟がたよ。それらと何の関わりも持つてはならない。まもなくこれらの連合や同盟のために、わたしたちの機関が諸都市でその働きを実行することが非常に難しくなる。」（セレクト・メッセージ 2 巻 142）

5. 遠大な概念

- a. 靈感は、都市生活の忙しさとそれが要求する同盟を、神がご自分の民のために願っておられる平和な生活とは対照的に、どのように描写していますか（ナホム 2:4; 哀歌 5:4; イザヤ 32:17-19）。

「わたしたちの民が諸都市の外に場所を構え、これらの前哨地から諸都市を警告し、それらの中に神のための記念碑を立てることが神のご計画である。警告のメッセージが聞こえるように、諸都市の中に感化の力がなくてはならない。

何年間も、わたしたちの民に、バトル・クリークから出よとの警告が与えられてきた。しかし、多くの事業がそこに確立されてきたため、残っているほうが便利であり、人々はなぜ移るべきかを認めることができなかった。……もしできるならば、バトル・クリークの外に学校をもっていきなさい。わたしたちのように信じる人がいない所へ出ていきなさい。そしてそこで豊かな土地のある場所に学校を建て、来る生徒たちが正しい方針のもと教育を受けられるようにしなさい。〔スパルディング兄弟とマガン〕は与えられた指示に従った。これが最初にとられた動きであった。それは成功であった。神はそれを喜ばれた。」（世界総会冊子 1903 年 4 月 6 日）

イスラエルのための神のご計画の中で、すべての家族は耕作のために十分な場所のある土地のついた家を持った。こうして有益で勤勉な自活のための手段と動機の両方が備えられた。そして人間の考案がこの計画を改善したことはない。

地の深いところには、その宝を集めるための勇気と意志と忍耐をもっている人々のための祝福が隠されている。一角の土地と快適な家庭を持っている父親と母親は王と女王である。

高価な住まい、精巧な家具、展示、豪華、安逸は、幸福で有益な生活に不可欠な条件を提供するものではない。」（信仰によってわたしは生きる 260）

個人的な復習問題

1. アハズはどれほどまでユダの人々を背信へ導きましたか。
2. アハズのアッスリヤとの同盟は、どのような方法で深刻な不信を表していましたか。
3. 宮での奉仕が終わったとき、神はどのように忠実な者を慰めましたか。
4. 同盟の実際の問題は何ですか。
5. 田舎の生活はわたしたちの信仰のために、なぜ特に今日、益となるのですか。

ヒゼキヤ

「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。」(コリント第一 10:12)

「われわれは日ごとの生活において負わなければならない義務が与えられている。毎日われわれの言行は、交わる人々に印象を与えている。われわれの唇に門番をおき、われわれの歩みを注意深く見守ることが何と必要なことであろう。」(国と指導者上巻 312)

推奨文献： 国と指導者上巻 296-313

日曜日

8月7日

1. 新たにされた希望

- a. アハズの息子ヒゼキヤは、自分がユダの王となったときに、何を自覚しましたか(歴代志下 29:1, 6-9)。彼が最初にとった一歩は何でしたか(歴代志下 29:2-5, 10)。

「ヒゼキヤは、北王国が陥っていた運命から、ユダを救おうと全力をつくす決意をもって王位についた。預言者たちの言葉は、中途半端な対策を奨励するものではなかった。最も決定的な改革によってのみ、切迫しつつあった刑罰を避けることができたのである。

この危機において、ヒゼキヤは、機会の人であった。彼は、王位につくや否や、計画を立て、それを実行し始めた。彼はまず、長い間行われていなかった神殿の務めを回復することに心を向けた。」(国と指導者上巻 296)

- b. 神は、どの嘆願をユダに向けられましたか(イザヤ 31:6)。「信心深い残りの民」はどのように応えましたか(ミカ 7:7-9; 歴代志下 29:16-20, 27-31, 35, 36)。

「神は、背信の潮流を止めるために、決定的改革運動を推進するようにユダの主立った人の心を準備されたのであった。」(同上 298)

2. 改革の喜び

- a. 宮の献堂式に際し、あらかじめ捧げられたどの預言的な祈りが、ヒゼキヤの改革において成就しましたか（列王記上 8:33, 34; 歴代志下 7:14）。

「[列王記上 8:33, 34 引用]。この祈りを神が嘉納されたしるしを与えられた。この祈りが終わったときに、天から火が下って、燔祭と犠牲とを焼き、主の栄光が宮に満ちたのである（歴代志下 7:1. 参照）。そして、主は、夜ソロモンに現れて、彼の祈りが聞かれたことと、そこで祈る人々に恵みが与えられることをお告げになったのである。……

これらの約束は、ヒゼキヤの治世下における改革のときに、あふるるばかりに成就したのである。」（国と指導者上巻 299, 300）

- b. ヒゼキヤの改革の成功を描写しなさい（歴代志下 30:1, 9-13, 21-23, 26, 27）。

「過越の祭りのために定められた七日間は、速やかに過ぎ去った。そして、礼拝者たちは、主の道をもっと詳しく学ぶために、そのあとさらに七日間、過ごすことにした。教育に当たっていた祭司たちは、律法の書から人々に教える働きを続けた。人々は、日ごとに神殿に集まって、彼らの賛美と感謝のささげ物をささげた。そして、大いなる集会が終わりに近づいたときに、神が、背信したユダの改心のために驚くべき働きをなし、国家の前にあるすべてのものを押し流すかと思われた偶像礼拝の潮流を阻止されたことが明らかになった。預言者たちの厳粛な警告は、むだに語られたのではなかった。」（同上 301）

- c. 過越の祭の後、さらにどのような過程がヒゼキヤの改革が本物であることを表しましたか（歴代志下 31:1, 5, 6）。彼の政権はどのように描写されていますか（歴代志下 31: 20, 21; 列王記下 18:4-7）。

「驚くべき摂理が引き続いて起こり、周囲の国々にイスラエルの神が神の民と共におられることを示したのが、ヒゼキヤの治世の特徴であった。」（同上 302）

3. 憐れみと使命

- a. ヒゼキヤが病気であったときに、どのメッセージがもたらされましたか。またどのように彼に憐れみが示されましたか（列王記下 20:1-7）。彼はどのように感謝を表現しましたか（イザヤ 38:9-20）。

「ユダの王はいつもの力を回復したときに、主のあわれみを歌の言葉に表現して感謝した。そして余生を王の王に心から仕えることを誓ったのである。彼が神のあわれみ深い取り扱いに対して感謝をいい表したことは、創造者の栄光のために、自分たちの年月を費やそうと望んでいるすべての者に大きな励ましを与えているのである。」（国と指導者上巻 305）

- b. どのしるしを通して神はヒゼキヤにご自分の約束を確認されましたか。またこのしるしは遠くの国においてどのような反応をしましたか（列王記下 20:8-12）

「チグリスとユーフラテ川にはさまれた肥沃な流域に、当時アッスリヤに属してはいたが、世界を支配する運命にあった古代民族が住んでいた。その国民の中に、熱心に天文学を研究していた賢者たちがあった。そして彼らは、日時計の影が十度退いたことに気づいたときに大いに驚いた。彼らの王メロダク・バラダンは、天の神がユダの王の寿命を延ばされたしるしに、神がこの奇跡を彼にお与えになったことを聞いてヒゼキヤに使者を送り、彼の回復を祝うとともに、できることならばこのように大きな奇跡を行うことができる神についてもっと学びたいと思った。

遠国の王からのこれらの使者たちの訪問は、生ける神を賛美する機会をヒゼキヤに与えたのである。彼がすべての造られたものを支えておられる神について語ることは、何と容易なことであったことだろう。その神の恵みによって、全く絶望的であった彼自身の生命が助けられたのである。カルデヤの平原から来たこれらの真理の探究者たちが、生ける神の最高の支配権を認めるように導かれたならば、何と大きな変化が起こったことであろう。」（同上 308, 309）

- c. 神がヒゼキヤにお与えになった伝道の機会から、わたしたちは何を学ぶことができますか（コロサイ 4:5; 黙示録 3:18（下句））。

「目は自分たちの機会を認め、感じるために天来の目薬を塗られる必要がある。」（教会への証 9 巻 130）

4. 大きな過ち

- a. どの過ちがヒゼキヤの良い記録を傷つけましたか (歴代志下 32:25, 31; イザヤ 39:1-4)。

「誇りと虚栄がヒゼキヤの心を捕らえた。そして彼は得意気に、強欲な人々の目の前に神がお与えになった、神の民の宝を開いて見せた。……〔イザヤ 39:2 引用〕。彼がこうしたのは、神に栄光を帰するためではなくて、外国の君たちの前で自分を高めるためであった。彼はこの人々が、神を恐れることも愛することもしない強大な国家の代表者であることを考慮しなかった。そして、彼が彼らを信じて国家の物質的富を見せたことは分別のないことであった。

使者たちがヒゼキヤを訪問したことは、彼の感謝と献身を試すためであった。……〔歴代志下 32:31 引用〕。もしヒゼキヤが、イスラエルの神の力と恵みとあわれみについてあかしを立てるために、彼に与えられた機会を活用したならば、使者たちの報告は暗黒を照らす光となったことであろう。しかし彼は、万軍の主よりも自分自身を賛美したのである。『しかしヒゼキヤはその受けた恵みに報いることをせず、その心が高ぶった』(歴代志下 32:25 上句)。

何と悲惨な結果が起ころうとしていたことであろう。帰国する使者たちは、彼らが見た富の報告を持ち帰ろうとしていた。そしてバビロンの王と大臣たちは、エルサレムの宝によって自分たちを富まそうと計画するであろうということがイザヤに示された。ヒゼキヤははなはだしい罪を犯した。『怒りが彼とユダおよびエルサレムに臨もうとした』のである (同 32:25 下句)。(国と指導者上巻 309, 311)

- b. イザヤはどの知らせをヒゼキヤに告げる必要がありましたか。そして、王はどのように自分の軽率さに対する悔い改めを示しましたか (イザヤ 39:5-8; 歴代志下 32:26)。

「ユダの王はその後の年月の間、過去の償いのためと彼が仕える神のみ名の栄えのために着実に歩んだので、大いに繁栄するのであった。しかし彼の信仰は激しく試みられるのであった。そして彼は、主に全く信頼することによってのみ、彼を破滅に陥れ、彼の民を全滅させようとしていた悪の勢力に勝利することができることを学ぶのであった。」(同上 311, 312)

5. 柔和のうちにいつも用意ができています

- a. わたしたちはみな、バビロンの大使たちとのヒゼキヤの経験から、何を学ぶべきですか（詩篇 141:3; コリント第一 10:12; ペテロ第一 3:15）。

「使者たちの訪問に当たってヒゼキヤが自分に与えられた信任に背いた物語は、すべてのものに重大な教訓を教えている。われわれは自分たちの経験の中の尊い出来事、神のあわれみとつくしみ、また、救い主の愛の比類のない深さなどについて、これまでよりもっと多く語らなければならない。……

毎日われわれの言行は、交わる人々に印象を与えている。われわれの唇に門番をおき、われわれの歩みを注意深く見守ることが何と必要なことであろう。一つの軽率な行為、一つの分別を欠いた歩み、また何か強い誘惑の波が押し寄せて、人を墮落の道に流してしまうのである。……

他方もしわれわれが自分たちの模範によって、正しい原則を発達させるように他の人々を助けたとするならば、われわれは彼らに善を行う力を与えるのである。今度は彼らが同様の有益な感化を、他の人々に及ぼすのである。こうして幾百幾千という人々が、われわれの無意識の感化によって助けられるのである。（国と指導者 上巻 312, 313）

「主のみ声が『わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか』と呼びかけるとき、聖霊が心のうちに次のように応えるものを入れるのである、『ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください』（イザヤ 6:8）。しかしまず燃える祭壇からの炭があなたのくちびるに触れなければならないことを心にとめておきなさい。そのとき、あなたの語る言葉は、賢明な聖なる言葉となる。そのとき、何を言うべきか、何を言わずにおくべきかを知る知恵を持つようになる。……

『ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい。また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、（恐れと柔和をもって、）いつでも弁明のできる用意をしていなさい』（ペテロ第一 3:15）。なぜ恐れをもってであろうか。あなたの言葉に自己尊大のにおいがしないように、無分別な言葉が語られないように、キリストに似ていない言葉やふるまいとならないように、恐れなさい。堅くキリストに結び付き、真理をこのお方のうちにあるがままに提示しなさい。』（教会への証 6 巻 325）

個人的な復習問題

1. なぜ、わたしたちはアハズの後継者の先を見越した取り組みによって鼓舞されますか。
2. ヒゼキヤの統治は、なぜ喜びと成功によって冠されたのですか。
3. ユダの王を助けることの他、神はだれを引き寄せようとしておられますか。
4. ヒゼキヤは大使たちが訪問したときに、何を忘れましたか。
5. 神を証することを求めるとき、なぜわたしたちは見張っている必要があるのですか。

誇りと謙遜

「謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。」(ペテロ第一 5:5)

「アッシリヤの誇りとその崩壊とは、時の終わりに至るまで実物教訓として、その役割を果たすのである。」(国と指導者上巻 333)

参考文献：国と指導者上巻 314-334

日曜日

8月14日

1. 忠実な指導力

- a. ヒゼキヤはどのような論拠をもって、アッシリヤに対峙した自分の民を勇気づけましたか。そしてイザヤの言葉はどのようにこの危機において助けとなりましたか(歴代志下 32:7, 8 (上旬) ; イザヤ 12:6)。

「ヒゼキヤがユダの王位についたときには、アッシリヤはすでに多数のイスラエル人を北王国から捕虜として連れ去っていた。そして彼が治め始めて数年しか経たず、彼がまだエルサレムの防衛を強化していたときに、アッシリヤはサマリヤを包囲してこれを占領し、十部族をアッシリヤ領土内の多くの地域に離散させたのである。ユダの国境はほんの数マイルの距離のところにあり、エルサレムも 50 マイル以内のところにあった。そして神殿の莫大な財宝を得ようとして、敵は帰ってくるのであった。しかしユダの王は、敵に抵抗するために彼のなすべき分をつくす決意を固めた。」(国と指導者上巻 315, 316)

- b. なぜヒゼキヤは神の助けに信頼することができたのですか (イザヤ 10:12, 24-27; 14: 24-27)。民は彼の訴えにどのように応えましたか (歴代志下 32:8 (下旬))。

「信仰を働かせることほど、急速に信仰を鼓舞するものはない。ユダの王は来たるべき嵐に備えていたのである。そして彼は今、アッシリヤに対する預言が成就することを確信して、神に信頼して、心安んじていたのである。」(同上 316)

2. 危機が訪れる

- a. どう見ても、展望はユダにとって希望がないように思えたときに、アッシリヤの将校たちはどのように事態をさらに悪化させましたか（イザヤ 36:13-20）。

「永く予想されていた危機が、ついにやって来た。勝利に勝利を得ていたアッシリヤの軍勢が、ついにユダに近づいた。勝利を確信した将軍たちは軍勢を二つに分け、一方が南のエジプト軍と対峙している間に、他のほうがエルサレムを包囲することにした。

今や、ユダの唯一の救いの望みは神であった。エジプトからの援助はことごとく切断され、援助の手を差しのべる他の国は近くなかった。

アッシリヤの将校たちは、彼らのよく訓練された軍勢の力を確信してユダの指導者たちと会議を開き、その席上で無礼にも都の明け渡しを要求した。この要求には、ヘブルの神に対する、不敬なのしりも伴っていた。イスラエルとユダの弱さと背信のために、神のみ名は諸国の間でもはや恐れられることがなくなり、絶えず物笑いの種になっていたのである（同 52:5 参照）。」（国と指導者上巻 316, 317）

- b. ユダは高慢なアッシリヤ人のあざけりにどのように反応しましたか。そして、この経験は、態度についてわたしたちに何を思い起こさせますか（イザヤ 36:21, 22; 37:1-4）。

「過去の各時代において、忠実な人々に対して陰謀を図ってきたのと同じ優れた知能が、今もなお、神を畏れ、その律法に従う人々を地上から一掃しようとしている。……迫害する統治者、牧師、教会員が彼らに対して共謀するであろう。声とペンをもって、大言壮語、脅し、あざけりによって彼らは彼らの信仰を覆そうとするであろう。」（教会への証 5 巻 450）

「意見の異なるところがある信仰の要点を調べるために人が共に集まるときに、どの精神が彼らを支配しているかが表される。真理を擁護して立っている人々は落ち着いて冷静であるべきである。もし彼らがキリストの思いを持っているならば、親切で礼儀正しい。彼らは激しい言葉を使うことによって本心を表すことはない。彼らは自らを無謬だとはみなさず、自分と違う人々を軽蔑をもって見ることはない。彼らはその人々を敵だとみなしたり、嘲笑とあざけりをもって対応することはない。」（福音宣伝者（1892） 389）

3. 希望のない状況下での信仰

- a. アッスリヤに対するユダの危機が最高に達したとき、神はイザヤを通してヒゼキヤにどのメッセージをお与えになりましたか（列王記下 19:5-7）。なぜこれらの歴史的に大きな経験をわたしたちがよく考えることは非常に重要なのですか。

「神はわたしたちが、神の民をその敵から救うために、過去どのように彼らを扱われたかを思い起こすことを望んでおられる。このお方はいつも、サタンの働きからの救出に何も可能性があるように見えないときに、ご自分の力を表すために難局を選んでこられた。人の必要は神の好機である。」（教会への証 5 巻 714）

「試みから逃れるのではなく、試みのただ中にいてクリスチャンの品性は磨かれる。拒絶や反対にさらされると、キリストの弟子はますます用心するようになり、一層熱心に偉大な助け主に祈るようになる。神の恵みによりきびしい試みに耐えると、忍耐強く、用心深く、不屈になり、また、神を信じる信仰が深まり、長続きするようになる。クリスチャン信仰の勝利とは、キリストに従う者が、苦しみを受けるが強められ、服従するが勝利し、たえず死に渡されるが生かされ、十字架を負うが、栄光の冠を受ける、まさに、このことである。」（患難から栄光へ下巻 160）

「最後に勝利を得る者は、その信仰生活の途上に、恐るべき患難と試練の時期があることを覚悟しなければならない。しかしこれは、キリストの学校の訓練の一部分であり、あらゆる不純物をとり去るためになくってはならない試練なのであるから、わたしたちはそういう時にも確信を失ってはならない。」（青年への使命 51, 52）

- b. この危機の間、イザヤとヒゼキヤは何をしましたか（歴代志下 32:20; 列王記下 19:14-19）。

「ユダのためと、最高の支配者であられる神の栄誉のためのヒゼキヤの嘆願は、神のみこころにながっていた。ソロモンは神殿を捧げた時の祝祷において、主が『主の民イスラエルを助けられるように。そうすれば、地のすべての民は主が神であることと、他に神のないことを知るに至るであろう』と祈ったのである（列王紀上 8:59, 60）。特に主は、戦争の時や敵軍の侵略を受けたときに、イスラエルのつかさたちが祈りの家に入って救いを請い願うときに、神は恵みをほどこされるのであった（同 8:33, 34 参照）。」（国と指導者上巻 323）

4. 正義のために神が支配される

- a. 主はユダの王と民に、再びどの保証を送られましたか（列王記下 19:20-22, 28, 32-34）。わたしたちは、彼らの土地が荒れ果てていたにもかかわらず、神が彼らの必要を満たされた方法から、何を学ぶべきですか（同 29 節）。

「昔、神の民が用意していたように、わたしたちも雲が上がれば前進し、雲が止まれば止まる用意をしているべきである。わたしたちは自分たちの動きを神の御霊の導きに合わせなければならない。自分自身の考案した道に従う代わりに、神性と協力しなければならない。こうするとき、わたしたちは自分たちの主の歩調に合わせることができる。

クリスチャンになるために、人が大きなタラントを持つ必要はない。人間の代理人は、立法審議会で発言権を持っていないかもしれない。彼は議会で審議することや国会で投票することが許されていないかもしれない。しかし、彼は神に近づくことができる。王の王は、主人のみ旨を行いたいと願うものから上る祈りを聞くために低く身をかがめられる。誠実な悔い改めた心から捧げられる熱心な祈りは、神の御目に、雄弁な演説よりも価値がある。神は信仰の香と共に捧げられるすべての祈りを聞かれる。このお方の最も弱い子供は、天の議会と調和して感化力を働かせることができる。神がご自分の働きにリバイバルを起こして下さるのは、祈りに応えてのことである。」（ビュー・アソド・ヘラド 1903 年 6 月 23 日）

- b. アッスリヤの運命は、どのような意味において、各時代の全般的な原則を提示していますか（イザヤ 30:27, 28; 箴言 11:17; 16:18）。

「誤ることのない正確さをもって、無限なお方はなおも諸国の帳簿をつけておられる。このお方の憐れみが悔い改めの呼びかけによって和らげられている間は、まだこの帳簿は開かれている。しかし、この数字が神の定めておられるある合計に達すると、このお方の怒りの奉仕が始まる。帳簿は閉じられる。神の忍耐は止む。憐れみはもはや彼らのために嘆願しない。」（同上 1915 年 6 月 3 日）

『「アッスリヤの高ぶりは低くされ、エジプトのつえは移り去る」（ゼカリヤ書 10:11）。これは神に逆らった古代の国家だけでなく、神のみこころを実現しない現代の国家においても同様である。全地の正しい審判者であられる神が「もろもろの国をふる」われる最後の報復の日に（イザヤ書 30:28）、そして真理を守り通した人々が神の都に入ることをゆるされるときに、天空は贖われた人々の勝利の歌に鳴り響くのである。』（国と指導者上巻 334）

5. わたしたちのうちに誇りを低くする

- a. ヒゼキヤ、イザヤ、アッスリヤ人に関わる経験から、わたしたちはどの実際的な教訓を得るべきですか（ペテロ第一 5:5-7; 箴言 16:18）。

「神が罰する方法は数多くあり、誇りにふけるところでは必ず罰が続く。……人が自分自身の能力を自覚して高ぶり、自分の人間の力に信頼するのを許すなら、彼はたしかに誘惑によって打ち負かされることになる。神は彼を引きずり降ろされる。このお方は、彼が神聖な助けの必要を感じることができるよう、彼に自分が全く弱いことをお教える。」（原稿別ス 21 巻 332, 333）

「わたしたちは神のみ前に日ごとに自らをへりくだらせるべきであり、また、自分の知恵が完全だと感じるべきではない。わたしたちは熱心に働きに取りかかるべきである。わたしたちは神に自分たちをへりくだらせて下さるよう祈るべきではない。なぜなら、神がわたしたちをつかまれる時には、わたしたちが喜ぶことができないような方法でわたしたちをへりくだらせられるからである。そうではなく、わたしたちは日々、自らを神の力強い御手の下にへりくだらせなければならない。わたしたちは恐れおののいて自分自身の救いの達成に努めなければならない。神がわたしたちのうちにご自身の喜ばれる願いを起こさせ、かつ実現に至らせて下さるのであるが、わたしたちはこのお方がわたしたちを通して働かれるときに協力しなければならない。わたしたちは自尊心のうちに自分の魂が高ぶることに對して用心しなければならない。しかし、あなたは次のように言うであろう、わたしはどのようにして自分の心にキリストがおられることを知ることができるだろうかと。もしあなたが批判されたり、あるいはあなたの道を正されて、こうなるべきだと自分が考えたとおりにならないとき、もしそのときにあなたが矯正をしのび、忍耐強く親切である代わりに、激情が起るのを許してしまうなら、キリストは心のうちに宿っておられないのである。

キリストは人を贖うためにご自身の命を与えるほどの価値を人の上に置いておられる。そしてこのお方はわたしたちの存在のすべての力と機能がご自分に完全に服することを要求される。しかし、わたしたちはカルバリーの十字架によって神がわたしたちを評価される光のうちに自分自身を評価するばかりではない。親切、礼儀、寛容によってわたしたちのへりくだりを示すことを恐れないようにしよう。自己が起き上がって、彼らが誤った報告で傷つけようとしているのは、わたしであると考えないようにしよう。」（ビュー・アノド・ヘルト 1887 年 7 月 12 日）

個人的な復習問題

1. ヒゼキヤはアッスリヤ人の脅しに直面した際に、どのように立ち上がりましたか。
2. わたしたちは自分の生活において、どのように「セナケリブたち」に応じるべきですか。
3. ユダがよく面した危機に、神はご自分のいにしえの契約をどのように尊ばれましたか。
4. アッスリヤの外面的な繁栄が消え去った方法から、わたしたちは何を学ぶことができますか。
5. わたしたちの個々のへりくだりの水準を表すリトマステストをいくつか挙げなさい。

人間は説明の義務がある

「その日、人々はその造り主を仰ぎのぞみ、イスラエルの聖者に目をとめ」（イザヤ 17:7）

「わたしたちの各人は自分の責任と天の神に対する説明の義務を自覚したところに立つべきである。わたしたちがこれを自覚するとき、聖なる祝福がわたしたちの上に宿る。」（オーストラリア連合総会記録 1899 年 7 月 28 日）

推奨文献： 教会への証 2 巻 686-694

日曜日

8月21日

1. 誇りと僭越は罪に定められている

- a. アッスリヤ人が裁かれたのと同じように、イザヤは傲慢なバビロンに何が起ると預言しましたか（イザヤ 13:1, 4-6, 17-22; 47:1-3, 7-9）。その大都市が実際に自分の運命に遭ったのは、いつでしたか（ダニエル 5:1, 18-23, 28, 30）。
- b. 主がまもなく霊的なバビロンにおとずれると宣言された類似点を説明しなさい（黙示録 18:1, 2, 7-17; エゼキエル 7:9）。
- c. なぜすべての人はこの観点において、見張っているべきなのですか（箴言 15:3）。

「主の目はすべての光景に注がれている。……わたしたちの生活のすべての言葉や行動に対して、罪を憎まれる神が証人としておられる。わたしたちはこのお方への説明の義務を逃れることはできない。なぜなら、神はどこにでもおられるからである。わたしたちは悲しみではなく、喜びをもって自分の勘定を差し出すことができるような方法で生活すべきではないだろうか。神はわたしたちに定められた働きを与えてこられた。そして、わたしたちはそれをこのお方の指示の下になすべきである。もしわたしたちが自分の力をサタンの支配下に置くならば、わたしたちは神に対して反逆しているのであり、わたしたちの生涯の記録の中に、ベルシャザルの記録の中に見出されたように、測られたときに致命的な不足が見出されることになる。」（サインズ・オブ・タイムズ 1888 年 9 月 14 日）

2. より多く神に、より少なく社会に依存する

- a. 近代社会の都市生活の喧騒の中で、わたしたちはいつもどの警告を心にとめていくべきですか（イザヤ 17:12-14）。例えば、主の近代の使命者は、彼女の生きていたとき 50 万人に満たなかった一つの都市（この場合、オーストラリアのメルボルン）に関して何を記すよう命じられましたか。

「神の民が絶えず騒動や混乱のある諸都市に定住することは神のみ旨ではない。彼らの子らはこれから離れているべきである。なぜなら、体組織は忙しきや殺到や騒音によって低下させられるからである。

主はご自分の民が田舎へ、すなわち土地のあるところへ定住し、自分たちの果実や野菜を育て、子供たちが直接自然の中で神のみわざに触れることができることへ移ることを望んでおられる。あなたの家族を都市から連れ出ささいというのがわたしのメッセージである。」（医事伝道 310, 311）

「諸都市はますます悪くなっている。その中には紛争と流血があるであろう。そしてついには地震がおとずれるであろう。建物は投げ倒され、天からの火によって燃え尽きるであろう。……

メルボルンのわたしたちの兄弟姉妹は神の勧告なしに動くのであろうか。彼らは世がますます悪くなり、諸都市がソドムとゴモラになっていくときに、メルボルンに大きな施設を作るのであろうか。彼らは時のしるしを見分けることがないように民の目を取り除いてしまうのであろうか。

諸都市に対して働かなければならない。その中で生活している人々に何がわたしたちの前にあるかについて警告しなければならない。時と手段を賢明に用いなさい。諸都市の大路や垣根で現代の真理を宣布するために何かできないことがないかを調べなさい。しかし、自分の家庭を都市の中においたり、事業をそこで確立したりしてはならない。もしそうするならば、将来、様々な祝日の遵守に合わせることを期待されるようになる。神の戒めを守る民に反対して苦情を言う機会をうかがう見張り人が立てられるであろう。サタンは自分の力と恨みをかきため、その結果は圧迫となる。都市が大きければ大きいほど、圧迫も大きくなるであろう。そのようなときに、わたしたちは自分たちの金銭と時間を諸都市の事業に投資するのであろうか。それらは新しい伝道地での働きを前進させるために非常に必要とされているのである。真理を教えることのできる人々は大路や垣根へ出て行って、神の家がいっぱいになるように、男女をむりやり連れてきなさい。」（原稿リ-ス 19 巻 336, 337）

- b. 肉の腕に頼る代わりに、わたしたちは何を見るべきですか（イザヤ 17:7, 8）。

3. 贖罪の日における献身

- a. 贖罪の日の本体に「きよい」肉を食べることについて、神は何を宣言しておられますか（イザヤ 22:12-14, 20-22（黙示録 3:8, 7 参照））。主の使命者が幻の中に連れていかれたとき、この「開かれた」また「閉じられた」門について、何が明らかにされましたか。

「聖霊がわれわれの上にくだった。そしてわたしは、聖霊によって生ける神の都へ連れて行かれた。そこで、わたしは、神の戒めと閉ざされた門に関するイエス・キリストのあかしとは分離することができないこと、また、神の戒めの重要性が明らかに照り輝き、神の民が安息日の真理のために試練を受けるのは、十誠の戒めを納めた箱のある天の至聖所の門が開かれたときであるのを見せられた。この門は、1844 年に、イエスの聖所における奉仕が終わったときに開かれた。そのときイエスは立ち上がって、聖所の門を閉じ、至聖所の門を開き、第二の幕の中に入られた。今彼は箱のそばに立っておられる。そして、今、イスラエルの人々の信仰はここに向けられている。

イエスが聖所の門を閉じられたので、だれもそれを開けることはできない。また彼が至聖所への門を開かれたので、だれもそれを閉じることができないことを、わたしは見た（黙示録 3:7,8 補遺及び付録参照）。そしてイエスが、箱のある至聖所の門を開いて、戒めが神の民に対して輝き出ているので、彼らは安息日の問題によって試みられていることを、わたしは見た。」（初代文集 105, 106）

- b. わたしたちの生存している時代を考えると、わたしたちの最も緊急な義務は何ですか（イザヤ 34:16）。わたしたちの時代の主の使命者の使命を要約しなさい。そしてなぜそれが非常に重要であるのかを説明しなさい。

「わたしは平安を叫ぶために来たのではない。あなた方はこの声を行くところどこでも聞くことができる。あなたがたを肉の安全のうちに眠らせるために喜んで寝かしつける人々がいる。しかし、わたしには別の働きがある。わたしのメッセージはあなたがたに警告し、あなたがたに生活を改革するように、また宇宙の神に対する反逆をやめるように命じるものである。神のみ言葉をとりあげて、あなたがたがそれに一致しているかを調べなさい。あなたがたの品性は天の調査の取り調べに耐えられるようなものであろうか。」（ビュー・アット・ヘラルド 1911 年 6 月 22 日）

4. 教理の風のただ中の錨

- a. 民が神とその知恵に対して疑問視する警告がある時代に、わたしたちはどのようにキリストのために堅く立つことができますか（イザヤ 29:13-16; 30:8-11）。

「主がご自分の律法が無効にされるこの終わりの時代ほど、もっと完全にご自分の選ばれた者たちへその大きな恵みを表される時はかつてなかった。」（牧師への証 96）

「主はすべての教師、すべての牧師、そしてご自分の真理の光を受けてきたすべての人に、自分の霊的な立場をはっきりと示すように求めておられる。彼らは大いなる光を受けてきた。そしてもし彼らが永遠の命を受けたいならば、彼らはもはや有限な人間を自分の頼みとすることなく、確かな土台の上に築かなければならない。」（同上 384）

- b. 宗教的な惑わしの時代の中で、何がわたしたちの安全策となるべきですか（イザヤ 8:19, 20）。

「キリストとベリアルの間には何の調和もない。悪人の復活がないことや彼らの来るべき時代についての独特な見解は、サタンが魂を滅ぼすという自分自身の目的に役立てるために終わりの時代の異端の中で働いてきたはなはだしい誤謬である。これらの誤謬は天来のメッセージとまったく調和することができない。」

これらの人々のうちある者は、自分たちが賜物と呼ぶ働きをもっており、彼らは主が自分たちを教会に置かれたという。彼らは知られざる言葉と呼ぶ意味のないたわごとを持っているが、それは人に知られていないばかりでなく、主や全天にも知られていないのである。そのような賜物は男女によって、大欺瞞者に助けられて、作り出されたものである。狂信、誤った興奮、意味不明な言葉を語ること、そしてやかましい興奮が、神が教会に置かれた賜物だと考えられてきた。ある人々はここで欺かれてきた。すべてこれらの実は良いものではなかった。『あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう』（マタイ 7:16）。狂信と騒音が信仰の特別な証拠だと考えられてきた。ある人々は強力な楽しい時間を持たないかぎり、集会に満足しない。彼らはそのために働き、感情の興奮を起こさせる。しかし、そのような集会の感化は有益なものではない。うれしい感情の高揚が去ると、彼らは集会前よりも低く沈むのである。なぜなら、彼らの幸福は正しい源泉からきたものではなかったからである。霊的な前進のために最も有益な集会は、厳粛さと心の深い吟味に特徴づけられたものである。そして、各人が自分自身を知るために探り、熱心に、また深いへりくだりをもって、キリストを学ぶために探るものである。」（教会への証 1 巻 411, 412）

5. 誤謬から遠く離れておく

- a. 今日、「ニューエイジ」のような精神主義的哲学や宗教が繁栄し、蔓延しているように見える中で、わたしたちは何を心にとめていなければなりませんか（イザヤ 47:10-15）。

「すべての人はたえず見張ることによって道徳的な性質を引き締めておく必要性を感じるべきである。忠実な歩哨のように、決して一瞬たりとも自分たちの警戒をゆるめてもよいと感じることなく、魂の要塞を守るべきである。熱心な祈りと生きた信仰のうちに、彼らの唯一の安全がある。」（健康に関する勧告 411）

「地上の事柄において、もっとも注意深く自分の職務の要求を果たそうと努め、自分の主人の意志を実行しようとするしもべは非常に価値がある。あるとき、紳士が信頼のおける運転手を雇おうと望んだ。何人かが募集に応じてやってきた。彼は各人にどれくらい近くまで、車を転倒させることなく、ある絶壁の淵を運転できるかを尋ねた。一人ずつ、自分が非常に危険な距離まで近づくことができると答えた。しかし、ついに一人が自分はできるだけそのような危険なことは請け負わず遠ざかっていると答えた。彼がその地位を占めるために雇われたのである。人は天の御父よりも良いしもべの価値がわかるであろうか。わたしたちの懸念は、どれくらい遠く主の戒めから離れることができるか、そして立法者の憐れみにつけこんで、なおも自分たちが神の寛容の境界線のうちにいると自分の魂をなだめることであってはならない。そうではなく、わたしたちはどれくらい遠く不法から離れていられるかを案じるべきである。わたしたちはキリストと天父の側にいること、そして横柄な僭越によってどんな危険をも冒さないことを決心すべきである。

今日、終わりのメッセージは神のしもべたちを神の律法のすべての規則に調和させるために先駆けとなっている一方、あざける者や不信者がいるであろう。しかし、すべての魂は自分自身の誠実さのうちに立たなければならない。ノアが洪水前の世界を警告するのに忠実であったように、わたしたちも神が自分たちに与えてくださった大いなる信任に忠実でなければならない。至る所にあざける者や中傷者がいるが、わたしたちは天の真理をこの時代の人々に伝えることにしり込みしてはならない。」（ビュー・アット・ヘラルド 1911 年 6 月 22 日）

個人的な復習問題

1. 霊的なバビロンがはびこるように見える一方、わたしたちは何を覚えているべきですか。
2. わたしは自分の生活様式を単純なものとし、世俗的な思いをより少なくするために、どの一步を踏み出すことができますか。
3. イザヤ書のどの証拠が、菜食と神の残りの民を結びつけますか。
4. 天はどのようにクリスマスの運動の主要な教理を否定しますか。
5. 誤謬が至る所に蔓延しているとき、最も安全な方針を説明しなさい。

第一安息日献金

エクアドル、バニョスにある治療院のために

エクアドルは南アメリカにある国です。首都はキトです。1,549 万人の人口を持ち、80.40%がカトリック宗教を信奉し、11.30%はプロテスタントとしています。

改革のメッセージは、マリオ・リナレスの努力を通して、1945 年にエクアドルに伝えられました。改革運動の働きは、組織として 1973 年に正式に設立されました。現在のところ、17 の教会と 3 つのグループがあります。神の祝福を通して、働きは顕著に成長しており、過去二年間で四人の福音の牧師が按手を受けました。

わたしたちの最後の 2012 年の実行委員会で、預言の霊の中にある勧告に基づいた治療院を建設することを決定しました。

「主はご自分のための記念碑となるべき治療院が多くの場所に設立されるように定めておられる。これは第三天使のメッセージを宣布するこのお方が選ばれた方法のひとつである。」(健康に関する勧告 248)

同じ会議で、このプロジェクトを支えるために寄付がなされました。一つの家族が治療院のために選ばれた都市であるバニョスに惜しみなく土地を捧げました。主はわたしたちに資格を持つ人々—医師、自然療法医、理学療法士、そしてこのプロジェクトに基づいた主題で自分の大学の論文に取り組んでいる兄弟—を与えてくださいました。わたしたちの願いはこのプロジェクトを神の祝福をもって実行することです。

バニョス・デ・アグア・サンタはバニョスとして知られていますが、エクアドルの中心的な都市です。そこにはミネラル豊富な温泉がいくつかあり、多くの滝があり、またそのほか様々な自然の魅力があります。バニョスは温暖気候に特徴づけられ、東エクアドルへの入り口であり、豊かな自然環境を提供しているため、世界中からの観光客の目的地の一つとなっています。

わたしたちはこの治療院がエクアドルに福音を広めるための効果的な方法になると信じています。そしてこの目的のための皆さんの惜しみない献金を深く感謝いたします。

エクアドルからの兄弟姉妹より



柔和な者のための導き

「また、あなたが右に行き、あるいは左に行く時、そのうしろで『これは道だ、これに歩め』と言う言葉を耳に聞く。」（イザヤ 30:21）

「人はサタンの誘惑の餌食となるがままに放置しておかれない。……決してまどろむことも眠ることもない御目がイスラエルの陣営を守っている。千々万々の天使たちは人の子らの必要に奉仕している。神によって靈感を受けた声が叫んでいる。これは道だ、これに歩め。」（今日のわたしの生涯 88）

推奨文献： 教会への証 5 巻 430-439, 508-516;
清められた生涯 80-93

日曜日

8月28日

1. 神の保護

- a. イザヤは神のぶどう園に対するその絶えざる保護を、どのような美しい例証をもって描写しましたか。そしてこれは神の子としてわたしたちの心の琴線にどのように触れますか（イザヤ 27:2, 3; 詩篇 112:5-7）。

「世は確かに暗い。反対はますます強くなるであろう。軽薄な人、あざける人はその邪悪さにおいてますます大胆に頑になるであろう。しかし、これらのすべてのために、わたしたちは動かされることはない。わたしたちは不確かに走ってきたのではなかった。否、否。わたしの心は神に信頼して定まっている。わたしたちには完全な救い主がおられる。わたしたちはこのお方の豊かな満ち満ちたものによって喜ぶことができる。」（キリストを映して 351）

「もしわたしたちが主の慈しみ深さと愛と、わたしたちのためのこのお方の絶えざる保護を見て、正しく評価することができさえすれば、どれほどこの世は変わることであろうか。もしわたしたちがまず神の国とその義を求めるならば、義の諸原則がわたしたちの生活を導き、自己探求はわたしたちの心のうちに場所を見出すことがなくなる。自分自身の意志を行おうとする願いは神のみ旨を行おうとする願いに没入する。わたしたちは絶えず神の愛と慈しみ深さに対する自覚を心に抱いている必要がある。わたしたちはこのお方がわたしたちに授けてこられた賜物の使い道について説明の義務を問われることを覚えている必要がある。」（原稿リ-ス 7 巻 327）

2. はっきりと目覚めて見張ることが必要

- a. 今日クリスチャンだと公言する多くの人々の目を含めて、多くの人々の目が盲目になっていることを、何が示してきましたか（イザヤ 29:9-12）。

「偽りの牧者たちは酔っているが、それは酒のためではなく、彼らはよろめいているが、それは強い酒のためではないことを、わたしは示された。神の真理は、彼らに対して閉ざされていて、彼らはそれを読むことができない。」（初代文集 228）

- b. 現代の真理を信じると言いながら、部分的にはそれを拒んでいる多くの人に、この状態はどのように影響を及ぼしていますか。またこの現実にとどの警告が伴っていますか（イザヤ 29:13-16）。

「再臨信徒であると公言している種々の団体は、それぞれ、真理を少しずつ持っているが、神は、これらの真理をすべて、神の日のための準備をしている神の民にお与えになった。また、神は、これらのどの団体も知らず、また理解しない真理をお与えになった。主は、この人々には封じられている事柄を見て理解する用意がある者たちに、開示なさった。もし神が、人々に伝えるべき新しい光をお持ちの場合には、神が選んで愛しておられる人々に、それを理解させてくださる。彼らは、暗黒と誤りの中にある人々のところへ行って光を受ける必要はない。

わたしは、われわれは最後のあわれみの使命を持っていると信じている人々は、毎日新しい誤りを吸収している人々から離れることが必要であることを見た。わたしは、若い者も年を取った者も、彼らの集会に出席すべきでないことを示された。それは、魂に致命的な毒である誤りを教え、教理を教えるかわりに人間の戒めを教える彼らを、このようにして奨励することは悪いことだからである。このような集会の影響はよくない。もし神が、このような暗黒と誤りから救い出してくださったならば、われわれは、神がお与えになった自由の中に固く立って、真理を喜んでいなければならない。神は、われわれが、行かなくてもよいのに誤りを聞きに行くのを、お喜びにならない。なぜなら、意志の力によって人々に誤りが強いわれているこれらの集会に、神がわれわれをつかわされるのでないかぎり、神は、われわれを保護されないからである。天使たちは、われわれを守護することをやめる。そして、われわれは、敵に攻撃されるままに放置され、サタンと彼の悪天使たちの力によって、暗くされて弱められる。そしてわれわれの回りの光は、暗黒によって汚される。

われわれは、作り話を聞いてむだに費やす時間はないことを、わたしは見た。われわれの心は、このようにして他にそらされることなく、現代の真理に満たされていないなければならない。」（同上 230, 231）

3. ある種類の人々に関する預言

- a. 自分の兄弟姉妹に対して批判的な精神にふけっている人々と対照的に、主の柔和な者に関して、どのような預言が与えられていますか（イザヤ 29:18-21）。

「自分の兄弟の愛情と友情を得ていると思っていた人が、自分は信頼されず、自分の動機が誤解されるのを見出す。……

飛び交う噂はしばしば兄弟間の一致を破壊するものとなる。開かれた思いと耳をもって飛び交うスキャンダルをとらえようと見張っている人がいる。彼らは、それ自体大したことがなくても何度も繰り返されて、ついにその人をみ言葉に対する違反者にしてしまうまで大げさにされた小さな出来事を集める。彼らのモットーは、『告発せよ。さあ、彼を告発しよう』であるかのようなものである（エレミヤ 20:10）。これらの噂話をふれ回る人々は、どれほど自分たちの行動が神に不快なものであるかを少しも知らずに、驚くばかりの忠誠を尽くして悪魔の働きをしているのである。もし、彼らがこのけがれた働きのためにささげている精力と熱心さの半分でも自分自身の心を吟味するために用いるならば、自分たちの魂から清めなければならない不純を非常にたくさん見いだし、自分の兄弟を批判する時間も傾向も持たなくなり、この誘惑の力のもとに陥ることはなくなるであろう。思いの戸ば「彼らが言っていた」や「わたしは聞いた」に対して閉ざされているべきである。わたしたちは嫉妬や邪推が自分たちの心の中に入り込むのを許す代わりに、自分の兄弟のところへ行って、率直に、しかし親切に、自分たちの聞いた彼らの品性や感化に対して有害な事柄を彼らの前に明らかにした後で、彼らと共に、彼らのために祈るべきではないだろうか。わたしたちは神の苦々しい敵である人々を愛し、交わることはできないが、わたしたちの主人であられるお方の特徴であった柔和と愛—悪を思わず、いらだたない愛—の精神を培うべきである。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1884 年 6 月 3 日）

- b. 正直に神を求めている熱心なユダヤの人々に関連して、この終わりの時代に、どの励ましに満ちた預言が与えられていますか（イザヤ 29:22-24）。

「ユダヤ人の中には、タルソのサウロのように聖書に詳しい人がいて、驚くべき力をもって、神の律法の不変性を宣言する。イスラエルの神は、われわれの時代にこの事を実現して下さる。彼の腕は短かくて、救い得ないのではない。神のしもべたちが、長い間おろそかにされ軽べつされていた人々のために、信仰をもって働くときに、神の救いがあらわれる。〔イザヤ 29:22-24 引用〕。」（患難から栄光へ下巻 65）

4. わたしたちすべてのものに対する神の長い忍耐

- a. イザヤはどのように神の民だと公言する人々の肉の傾向に対して率直に述べるよう命じられましたか。また、これはどのように今日わたしたちにあってはまりますか(イザヤ 30:8-16)。

「わたしたちはあなたがたにすべての罪のしみからあなたがた自身を清める必要性を印象づけたいのである。キリストがご自分の栄光のみ座の前に提示される教会は、『しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさい』ないのである(エペソ 5:27)。あなたがたは品性の衣を小羊の血で洗った者たちの中に入りたいであろうか。そうであれば、『悪を行うことをやめ、善を行うことをなさい』なさい(イザヤ 1:16, 17)。非の打ちどころなく、神の戒めと定めのうちを歩みなさい。あなたがたは天の真理を守るのに自分の都合に合うかどうかを尋ねてはならない。代価が何であろうと、自分の十字架を負うて、イエスに従いなさい。あなたがたはこのお方のくびきが負いやすく、このお方の荷は軽いことを見いだすであろう。あなたがたがこのお方の律法を破り、死の刑罰を招いた時に、あなたがたを不法の道から命と聖潔の道へ連れ戻すために、神はご自分のひとり子を惜しまれなかったのである。それでありながら、あなたがたはこの大きな救いをなおざりにし、永遠の命の条件に応じることを拒むのであろうか。……

これからは従順の道に自分の足をおくと決心しなさい。あなたがたを濃い雲のように動けなくしていた闇は裂けて、天来の光が、代価を問わず真理を持つすべての人の上に輝くであろう。

主はあなたがたのすべての試練を理解しておられる。そしてどんなに神のために生きることが不可能に見えても、あなたがたは道が現れるのを見いだすのである。あなたがたの信仰が試されるとき、このお方は紅海を開かれたように、水を分けてくださる。そしてみ摂理はあなたがたの足のために道を作る。神に仕えることは安全である。神の道を守ることは、あなたの世俗的な利点にはならないかもしれないが、不法者は永遠の損失を被るのである。……

わたしたちの父祖は不法を犯した。そしてわたしたちも彼らの歩みに従ってきた。しかし、神は律法の書を開き、背教のイスラエルは主の戒めを聞く。彼らの不法は明らかにされる。そして神の怒りは、光が自分たちの道の上に輝くときに、悔い改めて改革しないすべての魂に下るのである。……

わたしたちは自分たちの行いの過去の悪を悔い改め、心を尽くして神を求めなければならない。神はご自分が仰せになられたことをそのままなすということ信じ、いかなる方法においても悪と妥協してはならない。わたしたちは神のみ前に自ら大いにへりくだり、このお方の恩寵を失うよりは、むしろ他のどんな損失でも望ましいと考えるべきである。」(レビュ・アンド・ヘルド 1911年6月22日)

- b. 神はわたしたちに対して、ご自分の大いなる忍耐を、どのように表してこられましたか(イザヤ 30:18, 19)。

5. 細く小さな声に注意を傾ける

- a. 真心から「われらを試みに会わせず、悪より救い出したまえ」と祈ることは、どのようにわたしたちが安全な道にとどまる助けとなりますか（イザヤ 30:20, 21）。

「悪の同盟を影で操る者は、神のみ言葉を見失わせ、人のもろもろの意見が全景となるように絶えず働いている。彼はわたしたちが神の仰せになる『これは道だ、これに歩め』という声を聞こえなくしたいと思っているのである（イザヤ 30:21）。教育の課程を通じて、彼は天の光をおぼろげにするために自分の力の限りを尽くしているのである。」（教会への証 8 巻 305）

「主はすべての人が自分の成功はご自分と共にキリストのうちにあることを理解するよう願っておられる。それは彼らのへりくだりと柔和、心を尽くした従順と献身にかかっている。」（同上 7 巻 212）

「キリストが〔マタイ 6:13 に〕お与えになった祈りをささげることによって、わたしたちは自己を神の導きにゆだね、神がわたしたちを安全な道にお導きくださるように求めるのである。この祈りを心からささげながら、自分の好き勝手な道を歩こうと決心することはできない。わたしたちは神のみ手が自分を導くのを待つのである。わたしたちは神のみ声が、『これは道だ、これを歩め』と言うのを聞くであろう（イザヤ 30:21）。

サタンのささやきに従うことによって得られる利益をいつまでも考えていることは安全ではない。罪は、それにふけるすべての者に不名誉と災いをもたらす。しかし、その性質は人の目をくらます欺瞞的なものであつて、甘言をもって人を誘うのである。もしわたしたちがあえてサタンの領域に踏み込むならば、彼の力から守られるという保証はない。できるかぎりわたしたちは、誘惑者が自分に近づくすべての道を閉ざさなければならない。」（祝福の山 147, 148）

- b. わたしたちの偶像から向きを変えるとき、わたしたちに対する神のみ約束は何ですか（イザヤ 30:22-26）。

個人的な復習問題

1. わたしたちに神の祝福を降り注いでくださるとき、神はわたしたちが何を考えることを望んでおられますか。
2. わたしたちは他の教派を訪問しようと走る前に、なぜ再考すべきなのですか。
3. なぜ本当に柔和な人がうわさ話をすることは不可能なのですか。
4. 宗教を告白する肉の思いを持った人々は、何を優先しますか。
5. どのようにのみ、神は導きを求めるわたしたちの祈りに答えてくださいますか。

悔い改めた者への憐れみ

「いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖となえられる者がこう言われる、『わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、砕ける者の心をいかし。』（イザヤ 57:15）

「神との交わりにとって、最も深いへりくだり以上に重要不可欠なものはない。」（教会への証 5 卷 50）

推奨文献： 教会への証 6 卷 42-44, 119-125, 421-424.

日曜日

9月4日

1. 現実の確認

a. 神に近づくために、わたしたちは何を悟る必要がありますか（イザヤ 59:1, 2）。

「最大の範囲でふけり、かつ神からわたしたちを引き離し、非常に多くの人に伝染する霊的混乱をきたしている罪は、利己心である。自己否定なくして、主に返ることはありえない。わたしたちはこれを自分ではできない。しかし、神がわたしたちを強めてくださることを通して、わたしたちは他の人々に善をなすために生き、こうして、利己心という悪を遠ざけることができる。わたしたちは有益な無私の生涯のうちにすべてを神に捧げたいという自分の願望を表すために異教の地に行く必要はない。わたしたちはこれを自分たちの家庭の輪、教会、わたしたちが交わる人々の間、わたしたちが仕事をする人々の間ですべきである。日常の歩みのただ中でこそ、自己は否定され、制せられていなければならない。パウロは『わたしは日々死んでいる』と言うことができた（コリント第一 15:31）。日常の小さなやり取りの中で日々死ぬことが、わたしたちを勝利者にするのである。わたしたちは他の人々に善をなそうとする願望のうちに自己を忘れるべきである。多くの人々は、他の人々に対する愛が決定的に足りない。忠実に自分たちの義務を果たす代わりに、彼らは自分自身の楽しみを求めようとする。」（教会への証 2 卷 132）

「わたしたちが罪をゆるされ、平和を与えられるためには自分を知らなければならない。つまり、わたしたちを悔い改めに至らせる知識がなければならない。」（キリストの実物教訓 137）

2. 神に近づく

a. 神の御目にへりくだりはどれくらい重要ですか (イザヤ 57:14-17)。

「もし神のみ前にへりくだりのうちに歩む必要のある民がいるとすれば、それはこのお方の教会、すなわちこの時代にこのお方が選ばれた者たちである。わたしたちはみな知的な機能の鈍さ、自分たちの特権と機会に対する感謝の足りなさを嘆き悲しまなければならない。わたしたちには誇るものは何もない。」(著者と編集者への勧告 63)

「すべての自己称揚は識別され、捨て去られなければならない。真理と義だけがこの時代のためのテストに耐えることができる。わたしたちはみな日ごとに神の御霊に共にいていただかなければならない。それによってあらゆる邪悪な思想と賢明でない行動、また魂を虚栄へ持ち上げることがないように守られるためである。」(原稿別ス 19 巻 65)

「主は福音を広めるために道を開いておられるが、わたしたちの準備ができていない。日ごとにわたしたちは聖霊の力によって和らげられ、精錬される必要がある。わたしたちの思いでさえ、キリストにとりこにされる必要がある。献身していない自己は十字架につけられなければならない。」(サインズ・オブ・タイムズ 1900 年 10 月 24 日)

b. ご自分のみ言葉を通して、神はわたしたちのために何をなしたいと思っておられますか (イザヤ 57:18, 19)。

「いかなる種類の状況も、あなたの信仰を押しつけることがないように、あなたの信仰を深く、安全にキリストに集中させなさい。あなたの命がキリストと共に神のうちに隠れるようにしなさい。

あなたの思想を欠点のある他人の品性を考えることに浪費してはならない。これはあなたの品性の欠点を治しはしない。他の人々の悪を考えることによって、あなたは同じ姿へと変えられていく。あなたが他の人々の愚かさを語ったり、彼らがあなたになした害を責めなくなる誘惑にかられた時にはいつでも、彼らはキリストの聖徒を通して、キリストの心を傷つけたのだと考えなさい。それから、あなたの聖書をとって、神のみ前に開き、このお方の癒しの乳香を求めて嘆願しなさい。」(原稿別ス 21 巻 24, 25)

「み言葉は高ぶる者をへりくだらせ、強情な者を柔和に悔いた者とし、不従順な者を従順にする。人にとって自然な罪深い習慣は、日常の行いに織り込まれている。しかし神のみ言葉は肉の欲を切り離す。それは思いの思想と意図を識別する。それは関節と骨髓を分け、肉の欲を切り去り、人を自分の主のために喜んで苦しみに甘んじる者とする。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 928)

3. 永遠を視野に入れ続ける

- a. 柔和で悔いた人々への慰めとは対照的に、神の嘆願を拒む人々にはどのような判決がもたらされますか（イザヤ 57:20, 21）。この状態をどのように避けることができますか。

「あなたは自分が大事にしてきた偶像を喜んで捨て去るであろうか。あなたは心を汚すすべてのものから清めていただくために、喜んでイエスに心の中に入ってきていただくであろうか。あなたはつねにあらゆる状況下で、自分自身に対する支配権を得ているであろうか。あなたは『わたしにとって生きることはキリストである』、わたしはこのお方のものである、わたしの持っているものは、時間でも、力でも、感化力でも、みなこのお方のものである、と言えるであろうか。あなたは自分の寛容、忍耐、無我によってこのお方を表しているであろうか。」（サインズ・オブ・タイムズ 1902 年 4 月 9 日）

「ああ、神の民を、キリストの命じられた事柄をなすよう導き、それで尚、まったくのへりくだりと真実のうちに、わたしはふつつかな僕にすぎません、わたしたちはただ為すべき自分の義務をなしたにすぎませんというように導く献身とへりくだりがあったなら！しかし、神の評価によればなまぬるい多くの、実に多くの人々が誇りと重要さに膨れ上がっている。わずかなことが成し遂げられたがゆえに自己満足が表される。わたしたちは神のみ前に悔い改めと告白のついに砕けた魂の証をどこで聞くであろうか。信徒だと公言する人々がキリストのくびきを負っているところをどこで見るであろうか。熱心な祈りは、結果として神の御目に高価な柔和でおだやかな精神を所有させるが、それに捧げる時間はなんとわずかなことであろう。」（ビュー・アノド・ハラルド 1909 年 9 月 16 日）

あなたがたがクリスチャンであるかどうかを決めるのは、あなたの公言ではなく、あなたの一連の行動である。わたしたちはさばぎに近づいている。そしてわたしたちは現在とキリストの再臨の間にあるわずかな時間を知的なやり方で過ごすよう奮闘すべきである。わたしたちは木、草、または、わらではなく、価値のある知識で思いを満たすように努めるべきである。わたしたちはキリストの聖なる教えを理解する力が発達するよう、賢明に培うことによって自分たちの能力を増し加えるべきである。わたしたちは福音の奥義の教師となるべきである。」（同上 1892 年 4 月 19 日）

- b. 永遠を視野に入れるとき、わたしたちはいつも何を念頭に置いているべきですか（ローマ 14:10）。

「わたしたちは永遠の世界の境界線に生きている。すべての人の裁判は天の法廷で審議されているのであり、今こそ罪を捨て去り、救いのためにできる限り熱心に働くべき時である。」（キリストを映して 121）

4. 活動しておられる聖霊

- a. キリストは、わたしたちがより大きな割合でご自分の聖霊―約束された慰め主―を吹き込まれている証拠として、何を挙げておられますか(ヨハネ 16:8)。

「あなたがイエスに近づけば近づくほど、あなた自身の目にますますあなたが欠点だらけであることが見えてくる。なぜなら、あなたの視力がますますは明るくなり、あなたの不完全さが、このお方の完全なご性質と対照的に、広くはっきりと見えるようになるからである。しかし、失望してはならない。これはサタンの惑わしがその力を失いつつあるという証拠であり、御霊の感化があなたを目覚めさせ、あなたの無関心と不注意が去りつつあるという証拠である。

イエスに対する深く据えられた愛は、自分自身の罪深さを認めず、自覚しない心に宿ることはできない。恵みによって変えられる魂は、このお方の神聖なご品性を称賛する。しかし、もしわたしたちが自分自身の道徳的な醜さを認めないとすれば、それはわたしたちがキリストの麗しさと卓越さを見たことがないという間違いのない証拠である。わたしたちが自分自身のうちに評価するものを認めるのが少なければ少ないほど、わたしたちの救い主の無限の純潔と麗しさに評価するものをますます多く認めるのである。わたしたち自身の罪深さが、わたしたちを許すことがおできになるお方へとかり立てる。イエスはわたしたちを受け入れてくださる。なぜなら、このお方のみ言葉が保証されているからである。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1885 年 2 月 17 日)

- b. しばしば世の中で―そしてあまりにもしばしば教会の中でさえ―表されるこのへりくだりと反対の態度の間にある対照的な違いを説明しなさい。そして、後者の結果は何ですか(ヤコブ 3:13, 14)。

「真理に対して偽るとは何であろうか。それは真理を信じると主張しながら、精神と言葉とふるまいが、キリストではなくサタンを表すことである。邪推すること、短気になり、許さないことは真理に対して偽ることであるが、愛、忍耐、寛容は真理の原則と調和している。」(彼を知るために 185)

「多くの人々は一番になりたいという清くない願望を抱いている。多くの人々はへつらわれることを喜び、軽視や無視を油断なく見張っている。頑なな許さない精神がある。妬み、紛争、競争がある。……自己を低くし、自分の無価値さを深く永続的に自覚して、キリストの恵みを受ける者はほとんどいない。彼らは神の力の現れに耐えることができない。なぜなら、そうすると彼らのうちに自己評価、誇り、妬みを助長するからである。わたしたちのために主が今本当にわずかなことしかなさることができない理由はこれである。」(教会への証 5 巻 50, 51)

5. 他の人々の前で低くなる

- a. 御霊に満ちている人々は、欠点があり、過ちに陥っている人々に対して、どのように反応しますか (ガラテヤ 6:1-3)。

『わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたしたちの罪をもおゆるしく下さい』(ルカ 11:4)。わたしたちは心からこの祈りをくり返しながら、あえて許さない者となることはできない。なぜなら、わたしたちはこのお方に対する自分たちのとがを、わたしたちに対してとがある人々を許すように許してくださいと頼んでいるからである。この祈りの真の重要性を理解している人はほとんどいない。もし許さない人々がその意味の深さを理解したならば、彼らはそれをあえてくり返し、自分たちが人類同胞を扱うように、自分たちを扱ってくださいと神に求めることはしないであろう。(ユース・インストラクター 1899 年 12 月 7 日)

「働き人たちが自分の魂のうちにキリストに宿っていただくとき、すべての利己心が死ぬとき、競争心がなく、一番を求める紛争がないとき、一致が存在するとき、彼らが自らを聖別し、こうして互いの愛が見られ、感じられるとき、そのときこそ聖霊の恵みの雨は、神の約束がかつて一点一画も破られたことがないのと同じ確かさで、彼らの上に臨む。しかし、働き人たちが自分自身の優位性を示すために、他人の働きを割り引くとき、彼らは自分自身の働きにはあるべき署名がないことを証明するのである。神は彼らを祝福することがおできにならない。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 175)

「聖霊のバプテスマをわたしたちにお与えになる前に、天父はわたしたちがご自分を辱めることなく生きることができると調べるためにわたしたちを試される。神に近づきなさい、そうすれば神はあなたがたに近づいてくださるであろう。わが子よ、あなたが必要としている霊的な助けをすべて受けたと思ってはならない。そしてあなたは神ご自身が据えられた条件に応じることなく、大いなる霊的な祝福を受けられると考えてはならない。ヤコブとヨハネは求めれば、神のみ国で最高の地位を得ることができると考えた。ああ、なんと彼らは状況の理解がまったく足りなかったことであろう！彼らはキリストの栄光にあずかることができる前に、このお方のくびきを負い、このお方の柔和とへりくだりを学ばなければならないことを悟らなかつた。」(原稿リ-ス 1 巻 178)

個人的な復習問題

1. どの鍵を通して、勝利者に対する諸々の約束が、わたしに与えられますか。
2. 神のみ言葉を心から研究することによって、わたしたちのうちにどのような変化が起きますか。
3. 残されているわずかな時間を考えて、わたしたちは自分の焦点を何にあてるべきですか。
4. わたしたちはどのように真理に対して偽る危険性に陥るかもしれませんか。
5. 後の雨を受けるために、わたしは実際的にどのような段階を踏むことができますか。

今日のためのメッセージ

「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのようにあげ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ。」(イザヤ 58:1)

「わたしは、わたしたちのすべての教会員に、真の伝道者であるすべての人に、第三天のメッセージを信じるすべての人に、安息日に自分の足をとどめるすべての人に、イザヤ 58 章のメッセージを考えるようにと、強く訴えすぎることはできない。」(教会への証 6 巻 265)

推奨文献： 教会への証 2 巻 24-37; 5 巻 298-302

月曜日

9月11日

1. このメッセージはだれに語られているか

- a. イザヤ 58 章のメッセージを促進しようとする際、何を注意深く心に留めていなければなりませんか (イザヤ 58:1)。

「[イザヤ 58:1 引用]。このメッセージは伝えられなければならない。しかし、それを伝えなければならない反面、わたしたちの持っている光を持っていない人々を突き刺し、圧力をかけ、有罪宣告を下すことがないように注意すべきである。わたしたちはカトリックの人々に厳しく鋭い言葉で刺すために出ていくべきではない。カトリックの人々の中には、最も良心的なクリスチャンであり、自分の上に輝くすべての光のうちに歩む者がおり、神は彼らのために働かれる。大いなる特権と機会を持ちながら、自分たちの身体的、精神的、道徳的力を活用させてこなかった人々、かえって自らを喜ばせ、自分の責任を負うことを拒んできた人々は、教理的な点において誤謬の中にいても、他の人々に善をなすために生きることを求める人々よりも、神のみ前にはるかに大きな危険と大きな非難のうちにいる。他の人々を批判してはならない。糾弾してはならない。

もしわたしたちが利己的な考慮や、偽りの論理、また偽りの言い訳によって、自らが頑固な思いと心の状態になるのを許し、こうして神の方法とみ旨を知らないことになれば、わたしたちはあからさまな罪人よりもはるかに罪深い。わたしたちは神のみ前に、自分たちよりも罪の軽い人々を糾弾することがないように非常に注意する必要がある。」(教会への証 9 巻 243, 244)

2. しばしば沈黙させられる警告

- a. 「大いに呼ばわって声を惜し」まないうよう努めている熱心な信徒は（イザヤ 58:1）、しばしばどのような反応に直面しますか（ヨハネ 3:19-21；民数記 16:1-4 参照）。神の民だと公言する人々の状態に関して、主の使命者は何を示されましたか

「多くの人々が心の中に偶像を抱き、悪を行っている。その悪が彼らを神から引き離し、彼らを闇の体としている。わたしは、ほんのわずかな者しか、これらのつまずきの石を発見し、それらを道から取り除くための識別力と霊性を持って、光のうちに立っていないことを見た。……

民に危険を警告する見張り人としての地位を占めているある人々は、自分の見張りをやめて、安穩としている。彼らは不忠実な歩哨である。彼らは、自分たちの悪賢い敵が砦に入り、自分たちの傍らで神が建てるように命じられたものを壊す働きに成功しているのに、活動せずじっとしたままである。彼らはサタンが、経験が浅く無防備な者たちを欺いているのを見る。しかしなお、彼らはあたかも特別な関心がないかのように、またそれらのことが自分たちには関係ないかのように、まったく静観している。彼らは特別な危険を感知しない。彼らは警報を鳴らす理由を認めない。彼らにとっては万事がうまくいっているように見える。そして彼らは、民にそのとがを知らせ、イスラエルの家にその罪を示すために率直な証を担っている警告のラッパの音を聞いているが、それを忠実に鳴らす必要性を認めない。これらの譴責や警告はこれらの眠たげで安逸を愛する歩哨たちの静寂を破るため、彼らは喜ばないのである。彼らは言葉には出さなくても心の中で、『これは全く必要のないことだ。それは厳密すぎるし、きびしすぎる。これらの人は不必要にかき乱し、興奮して、わたしたちに休息も静けさも与えたくないようだ。』「あなたがたは、分を越えています。全会衆は、ことごとく聖なるものであ」る（民数記 16:3）。彼らはわたしたちになんの快適さも、平安も、幸福も持たせたくないのだ。これらの不合理で合わせにくい見張り人たちを満足させるのは、ただ活動的な働きと、苦労と油断のない見張りだけである。なぜ彼らは耳ざわりのよいことを預言しないのであろうか。平安、平安と叫ばないのであろうか。そうすれば万事は問題なく進むのである。』……

民は刻んだ像を立ててはいないかもしれないが、神の御目に彼らの罪は少しも減じてはいない。彼らは富を礼拝している。彼らは世のもうけを愛している。ある人々は自分の目的を確保するためにはどんな良心の犠牲も払う。神の民だと公言する人々は利己的で、自分のことにかまけている。彼らはこの世の事柄を愛し、闇のわざと関わりを持つ。彼らは不義を喜ぶ。彼らは神への愛も自分の隣人への愛も持っていない。彼らは偶像礼拝者であり、神の御目には、よりよい道について知識のない異教の刻んだ像の偶像礼拝者よりも悪く、しかもはるかに悪いのである。」（教会への証 2 巻 439-441）

3. 音をなくしたラッパ

- a. 警告のラッパにはっきりとした音を与えようとしているすべての人にとって、この任務を難しくしている要素は何ですか（イザヤ 58:2; エゼキエル 2:1-7）。

「罪の譴責を受けなければならない者は、邪悪な世ではなくて、主が『わが民』と呼ばれる人々である。主は、さらにこう言われる。『彼らは日々わたしを尋ね求め、義を行い、神のおきてを捨てない国民のように、わが道を知ることを喜ぶ』（イザヤ書 58:1, 2）。ここには、自分たちを義とし、神の奉仕に非常な関心を示すかのように思われる一団の人々が示されている。しかし、人の心を見通されるおかたの、手きびしい厳粛な譴責は、彼らが神の律法を踏みにじっているということを証明している。」（各時代の斗争圖下巻 175, 176）

「主はこれらの民について次のように言われる、『彼らは日々わたしを尋ね求め、わが道を知ることを喜び、義を行った国民のよう』だ。ここに自己欺瞞、自己義、自己満足の民がいる。そして牧師は大声で叫び、彼らにその罪を示すように命じられている。すべての時代において、この働きは神の民のためになされてきた。そしてそれは今もかつてなかったほど必要とされている。……

神はいつもご自分のメッセージを託す人々を持っておられる。このお方の御霊は彼らの心に働き、彼らに語るように迫る。聖なる熱意に刺激されて、自分たちの上に臨む神聖な衝動により、彼らは主が自分たちに与えられたみ言葉を民に語る結果を冷たく計算することなく、義務の実行にとりかかる。しかし、神の僕はまもなく自分が何かを危険にさらしたことに気が付く。彼は自分自身と自分のメッセージが批判的にされるのを見る。彼の様式、彼の生活、彼の財産はみな調べられ、批評される。彼のメッセージは粉碎され、人間が有限な判断力によって適切だと思う通りに、最も狭量で聖化されていない精神のうちに拒まれる。そのメッセージは神が成し遂げようと意図された働きをなしたのであろうか。否。それは聞く者の心が聖化されていなかったために、著しく失敗したのである。

もし牧師の顔が火打石でなければ、もし彼が不屈の信仰と勇気を持っていなければ、もし彼の心が継続的な神との交わりによって強くされていなければ、彼は自分が語っている人々の聖化されていない耳と心を喜ばせるように自分の証の形を変え始める。彼はさらされる批判を避けようと努めるうちに、神から離れ、神聖な恩寵の自覚を失い、彼の証は弱められ、命のないものとなる。彼は自分の勇気と信仰が失われ、自分の労力が無力になったことを見いだすのである。」（教会への証 5 巻 299）

4. だれのために、わたしは本当に嘆いているか？

- a. イザヤ 58 章の中で神の民だと公言する人々は、神が自分たちの奉仕にどのように反応されることを期待していますか。そしてこのお方はどのようにお答えになりますか(イザヤ 58:3; マラキ 3:14, 15)。今日、この点一神に対する、また他の人々に対する一わたしたち自身の態度について、わたしたちはどの要素を考慮すべきですか。

「〔イザヤ 58:1-3 引用〕。預言者はわたしたちの前に、自分たちが利己的に望むものをみな与えてくださらないからと言って、主に対してあら捜しをしている民を提示する。彼らのつぶやきに対するご自分の答えの中で、主は彼らにはご自分の手に要求しているものをみな受ける価値がないことを示しておられる。なぜなら、彼らは義のうちに取り扱わなかったからである。」(世界総会冊子 1909 年 5 月 31 日)

「〔イザヤ 58 章の中の〕これらの礼拝者によってなされる断食は単なる見せかけであり、へりくだりの茶番である。彼らは品性に好ましくない特性をことごとく維持している。彼らの心は汚れから清められていない。彼らは神の恵みのやわらげる雨を受けていない。彼らは聖霊に欠けており、その感化力の麗しさに欠けている。彼らは悔い改めも、愛によって働く信仰も表さない。彼らは自分の同胞を扱う際に不公平で、利己的であり、自分より劣っていると思う者に対して容赦なく圧迫する。それでいながら、神が彼らの義のゆえに他のだれよりも自分たちを高めてくださらないからと言ってつぶやくのである。」(レビュ・アンド・ヘラルド 1901 年 6 月 25 日)

「預言者〔イザヤ〕が警告するように命じられた民は……信心の形を持っている。そして自分たちが高らかに公言し、一連の宗教的な奉仕を守っているからと言って、自分自身を特別な恩寵と祝福を受ける資格があるものとみなす。これが彼らの自己満足を肥やす。そしてキリストの許に来て、自分はすべての戒めを守ってきたと主張し、『ほかに何が足りないのでしょうか』と尋ねた青年が感じたように、彼らも感じる。……この青年は自分が神のすべての戒めを守っているとうぬぼれた。しかし、守っていたらどうか。否。彼は神を最高に愛してはいなかった。なぜなら、彼は信任のうちに委ねられていたにすぎない自分の富を、神を愛する以上に愛していたからである。そして彼は自分の隣人を自分自身のように愛してはいなかった。なぜなら、彼は自分の財産を彼らに分け与えたくはなかったからである。彼は自分の財産を、キリストがご自身の命をそのために犠牲にしようとしていた魂よりも愛していた。」(同上 1891 年 10 月 13 日)

「自分をあわれむことを警戒しなければならない。自分の正当な真価が認められず、その努力が感謝されず、仕事があまりに困難だというような気持ちをほしいままにすることはならない。キリストがわたしたちのため耐えられたことを覚えて、すべての不平な思いをしずめなさい。わたしたちはわたしたちの主よりもよく取り扱われているのである。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 460.461)

5. 行為の背後にある動機

- a. イザヤ 58 章の中で、神の民の断食の背後にあった本当の動機はなんでしたか(イザヤ 58:4)。わたしたちはこの行為の精神をどのように避けなければなりませんか(ルカ 7:33-35)。

「世の贖い主は、ユダヤ国民が守っていた断食を尊ぶことがおできにならなかった。キリストがへりくだりのうちに取税人や罪人たちと食される一方で、彼らは誇りと自己義のうちに断食する。

墮落以来、サタンの働きは訴えることであった。そして神の送られる光を拒む者は、今日同じ道をたどる。彼らは自分たちが律法の違反だと考えるものを他の人々に知らせる。パリサイ人たちも同様であった。彼らが弟子たちに何か告発することができるとを見つけると、彼らは過ちに陥っていると思う人には語らない。彼らはキリストの弟子たちのうちにある嘆かわしいことだと考えている事柄をキリストに話すのである。彼らが、キリストが律法に背いていると思うと、このお方のことを弟子たちに告発するのである。心を疎遠にするのが彼らの働きである。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1088)

「わたしたちの祈りが自信のうちに捧げられるとき、目を覚まして自分たちの行動を祈りと調和させることに失敗するとき、わたしたちは天の目から礼拝者とは認められない。愛によって働き、魂を清める信仰に欠けているのである。なぜなら、本物の信仰はその所有者を導いて、肉の行いを抑制させ、利己心、自己愛、短気、そして自己義を十字架につけさせるからである。真にキリストに従いたいと願う者は、日ごとに柔和と心の低さのうちに教訓を学ばなければならない。それは彼らが慎重に語り、礼儀と親切を表し、優しい心を持ち、家庭に同情と日光をもたらすことができるためである。すべての紛争、すべての論争、すべて舌と悪のこぶしを持って打つことは捨て去らなければならない。威圧的な態度は抑制され、優しさと、心やすい気質が培われなければならない。」(レビュー・アンド・ヘアルド 1894 年 6 月 5 日)

個人的な復習問題

1. どの聖書の原則が、神に対する説明の義務について、わたしたちの水準を決めますか。
2. なぜ罪を譴責する率直な証は反対に直面するのですか。
3. もしわたしたちが永遠のことを真剣に考えるなら、諸原則について、どのように感じますか。
4. イザヤ 58 章におけるユダヤ人の断食は、何が悪かったのですか。
5. 断食をしてもしなくても、どのような種類の態度が祈りを妨げますか。

今日のための使命

「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる。」(イザヤ 58:12)。

「神の残りの民は改革者として世の前に立ち、神の律法がすべての永続的改革の基礎である……ことを示さなければならない。……彼らは、破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者、とならなければならないのである。」(国と指導者下巻 278)

推奨文献： 福祉伝道 29-41

日曜日

9月18日

1. 人工的な宗教のしるし

a. わたしたちはどのように偽りのへりくだりを避けることができますか(イザヤ 58:5; ペリピ 2:3, 14, 15)。

「だれもパピルスのように頭を垂れることが真のへりくだりの代わりになると考えることがないようにしよう。そのようなへりくだりは偽物である。なぜなら、柔和が心の中に存在していないところでは、生活の中にそれが現れることはないからである。単に真理を公言するだけでみ言葉を行わない人々は、家族の祭壇を壊し、家庭に紛争と争いを起こす。そしてそこにキリストを信じる信仰からあふれる聖なる情け深い行為に欠けている。世に対する福音の力の最も説得力のある証拠は、それを信じる人々の生活に及ぼす真理の効果である。真のクリスチャンである者はキリストを表し、神についての、あるいは自分の同胞である人についてのつぶやきや文句を一切やめる。……

単に表面的なクリスチャンである人々は、断食し、自分たちの下に荒布と灰を敷こうとも、自分自身にとっても他の人々にとっても祝福とはならない。古い習慣が戻ってくる。短気、疑い、嫉妬、他の人々を裁くこと—これらはみな彼らがキリストの恵みによって支配されていないことを表す。……彼らがキリストのような行為を表すことに失敗するとき、彼らはその責めと責任を自分を取り巻く環境か、自分が接触するようになった人々に負わせる。どこに自分の矛盾があるかを調べるために自分自身を吟味する代わりに、彼らは自分の事情を嘆き、彼らの困難は他の人々の誤った行動の結果であると思うのである。」(ビュー・アンド・ヘルト 1894年6月5日)

2. 神の選ばれる断食

a. どの断食が、クリスチャンの敬神の最高の標準を表しますか (イザヤ 58:6)。

「この章〔イザヤ 58 章〕で命じられている情け深い働きは、神がご自分の民にこの時代になすようにと要求しておられる働きである。」(教会への証 6 巻 265)

「〔神の〕ご要求の中に、このお方の戒めの中に、このお方の律法の中にある完全さを提示するとき、わたしたちは悪の縄目を解くものを提示しているのである。そして人に断食をさせる代わりに、彼らに罪のかせをかける代わりに、それは悪の縄目と、敵によってしえ上げられている者を解き放つのである。」(原稿リ-ス 5 巻 38)

「貧しい者や苦しんでいる者が何を必要としているかを見つけ、それから愛とやさしさのうちに、神があなたにお与えになったよきものを彼らと分かち合うことによって彼らが勇気と希望と信頼を持つように助けなさい。こうしてあなたは神があなたにさせようと思われたまさにその働きをしていることになる。『しえ上げられる者を放ち去らせ』よ (イザヤ 58:6)。すべてのくびきを砕くまで休んじてはならない。あなたがこの働きをなおざりにしながら、神に従うことはできない。」(バプティック・ユニオン・リ-ダー 1904 年 7 月 21 日)

b. 神の真の断食には、他に何が含まれていますか (イザヤ 58:7)。

「〔イザヤ 58:6, 7 引用〕。これが、心がくじけ、疑い、震える魂のためにキリストが書かれた処方箋である。悲しんでいる者、主の前に嘆きながら歩いている者は、立ち上がって助けを必要としているだれかを助けなさい。……

主は教会により高い敬神、すなわち単なる義務感以上の、自分の創造主に対する自分の義務についてのより明確な自覚を求めておられる。そしてクリスチャンの助けの働きは、これをもたらす一つの手段である。なぜなら、聖霊は神の奉仕をしているすべての人と通信するからである。」(教会への証 6 巻 266, 267)

「救うべき世界があるということを知覚していなさい。わたしたちは、キリストの共労者としてこのお方のかたわら近くに立ち、自分の役割を果たさなければならない。このお方は頭であられる。わたしたちはこのお方の助け手である。このお方はわたしたちが、医事伝道の働きによって、重い荷を解き、しえ上げられている者を自由に行かせようと計画しておられる。わたしたちのまわりにある惨めさに目を閉じることなく、絶えず立ち上っている苦悩の叫びに耳を閉じないようにしよう。キリストは世がかつて知った中でもっとも偉大な伝道者であられる。このお方は悲しみ、苦しんでいる人々を起き上がらせるために来られた。そして、この働きにおいて、わたしたちはこのお方と協力しなければならない。」(福祉伝道 118)

3. わたしたちの言葉の習慣を徹底調査する

- a. 信仰によって、困窮している他の人々に实际的に奉仕するという喜びを迫及するすべての人々に、どのような豊かな約束がもたらされますか（イザヤ 58:8）。

「〔イザヤ 58:8 引用〕。わたしたちの教会員が個々に自分に定められた働きにとりかかるとき、彼らは全く違った雰囲気にもまれるであろう。祝福と力が彼らの働きに伴う。彼らはより高い思いと心の洗練を経験する。彼らの魂をしばりつけていた利己心は克服される。彼らの信仰が生きた原則となるのである。」（教会への証 6 巻 267, 268）

- b. なぜわたしたちは「指をさすこと」というクリスチャンらしからぬ習慣を完全に克服しなければならないのですか（イザヤ 58:9, 10; マタイ 7:1-5）。

「自分自身の欠点に盲目な者こそ、しばしば他の人の欠点に気づくのに早く、彼らの言葉を批判するのに早く、彼らがしたこと、しなかったことについて非難するのである。……

他の人に対する不親切な批判の一つ一つ、自負心の言葉一つ一つは、『指をさすこと、悪い事（虚栄）を語ること』である（イザヤ 58:9）。あたかも自分が無謬であるかのように、誇りのうちに自己を高めること、他の人の欠点を拡大することは、神に対する侮辱である。……

わたしたちは自分たちの耳に何か悪い噂が届き、何か告発され、あるいは悪いことをしたらしいと憶測がほのめかされたからと言って、兄弟に対する信頼を失う権利はない。しばしば悪い噂は神に対して敵意を持っている人々によって、兄弟たちを告発するという敵の働きに加わる人々によってわたしたちのところへもたらされるのである。救い主の『どう聞かずに注意するがよい』という言葉に注意を払わない人々は、自分たちの聖化されていない耳が悪を聞くことを、彼らのゆがんだ感覚が悪を想像することを、そして彼らの邪悪な舌が悪いことをうわさすることを許すのである。

兄弟の告発者である多くの人々は、過ちに陥っていると思う人々のところへ行つて公然と語ることをせず、他の人のところへ行つて、誤っている人への友情という仮面の下に、彼らに非難を投げかける。時には、これらの告発者たちは自分たちがひそかに傷つけようとしている人々に公然と同意する。彼らは推測に過ぎないことを事実として述べるが、彼らが告発している人々に、過ちだと考えていることについてはつきりと述べることができないので、彼らはその人たちに嫌疑に対して答える機会を与えないのである。」（ビュー・アソド・ヘルド 1895 年 5 月 7 日）

4. 破壊する代わりに建設する

- a. 「くびき、指をさすこと、悪い事を語ること」に対して勝利を得るとき、わたしたちの経験には、どのような変化がもたらされますか（イザヤ 58:10, 11）。

「キリストのみ事業においてよい奉仕をなすことができるはずであるのに、自分たちのタラントと感化を建設する代わりに取り壊すために用いる人々は、神の怒りを感じるようになる。彼らはキリストが人々を破られた律法の刑罰から救うときに苦しめられたことを経験するようになる。人の価値と人の説明の義務の大きさは、ただカルバリーの十字架によってのみ知ることができる。」（サッソ・ウォッチマン 1908 年 3 月 31 日）

「善をなすことは病気に対するすばらしい治療法である。この働きに携わる人々は、神に呼ばれるよう招かれている。そしてこのお方は彼らに応えとご自身を指して誓われた。彼らの魂は干ばつにあっても満たされる。そして、彼らは水が尽きることのない潤された園ようになる。」

起きよ、兄弟姉妹がたよ。良い働きをすることを恐れてはならない。『わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる』（ガラテヤ 6:9）。あなたの義務を教えられるまで待つてはならない。あなたの周りにいる人々に耳を開き、見なさい。無力な者、苦しんでいる者、困窮している者の友となきなさい。彼らから身を隠してはならない、また彼らの必要を見ないようにしてはならない。ヤコブの中で述べられている、利己心や墮落によって汚されていない清い宗教を持っている証拠を示す人はだれであろうか。救いの偉大な計画において支援するために力を尽くそうと切望している人はだれであろうか。（教会への証 2 巻 29）

- b. わたしたちに任命された使命とそれに伴う約束を述べなさい（イザヤ 58:12, 13（上句））。

「神の民は神の律法の中に作られた破れを修復することにおいてなすべき特別な働きがある。そしてわたしたちが終末に近づくにつれ、この働きはますます緊急なものとなる。神を愛するすべての人は、自分たちが神の戒めを守ることによってこのお方のしるしを帯びていることを示すであろう。彼らは市街を繕って住むべき所となす者である。……〔イザヤ 58:13, 14 引用〕。こうして本物の医事伝道の働きは神の戒めの遵守と切り離せない関係で結ばれている。その中で特別に安息日が述べられている。なぜなら、神の創造のみわぎの偉大な記念碑だからである。その遵守は神の道徳的なみかたちを人の中に回復する働きと結びついている。これが、神の民がこの時代に実行しなければならない医事伝道である。」（同上 6 巻 265, 266）

5. 平和の君を通しての平和

- a. 安息日遵守の一部としての本物のクリスチアンの有用性について、何を理解すべきですか（イザヤ 58:13, 14）。

「全天は、安息日に、第四条の要求を認め、安息日を守っている人々を眺め、見守っているものとして、わたしに示された。天使たちはこの聖なる制度への彼らの関心と、高い敬意に注目している。厳密な献身の心構えによって自分たちの心の中で主なる神を聖別する人々、また自分たちの能力の限りを尽くして安息日を守ることによって聖なる時間を有効に使い、安息日を喜びの日と呼ぶことによって神を尊ぼうとする人々—これらの人々を特別に天使たちは光と健康をもって祝福し、彼らに特別な力が与えられる。しかし、一方で天使たちは神の聖別された日の神聖さを正しく評価しない人々からは向きを変え、彼らから彼らの光と力を取り除いていた。わたしは彼らに雲が影を落とし、彼らが落胆し、しばしば悲しんでいるのを見た。彼らは神の御霊の欠乏を感じた。」（教会への証 2 巻 704, 705）

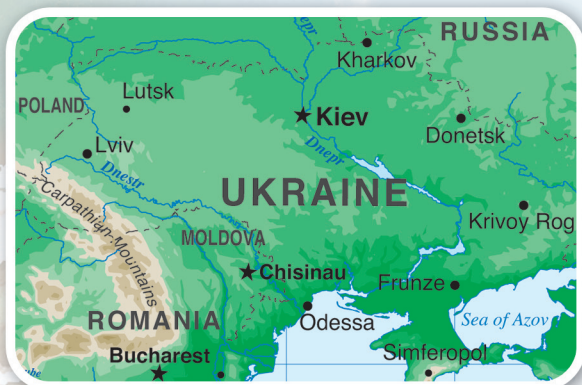
「自分自身を喜ばせるためではなく、非常に少ない祝福しか持っていない不幸な人々の祝福になるために生きてきた人々—彼らの心はどれほど満足に胸を躍らせることであろう！彼らは次の約束を実感する。『彼らは返礼ができないから、あなたはさいわいになるであろう。正しい人々の復活の際には、あなたは報いられるであろう』（ルカ 14:14）。」（同上 6 巻 312）

「安息日をキリストの創造とあがないの力のしるしとして受け入れるすべての人にとって、この日は楽しみとなる。彼らはその中にキリストをみだし、キリストのうちにあってよろこぶ。安息日は創造のみわざをあがないにおけるキリストの大いなる力の証拠として彼らにさし示す。それはエデンの失われた平和を心に呼びもどすとともに、救い主を通して回復された平和を告げている。」（各時代の希望上巻 373）

個人的な復習問題

1. 偽りのへりくだり、及び真のへりくだりの例をいくつか挙げなさい。
2. 神はどのような偽善的な断食を責めておられますか。
3. わたしはどのように神がわたしに望んでおられる最上の種類の断食にあずかることができますか。
4. 何が、破壊する人間の傾向を築き上げる方へ変えることができますか。
5. 今日、安息日遵守者のための栄光に満ちたご計画を要約しなさい。

第一安息日献金



7月2日

ニューカレドニア、マレ島の
礼拝堂のために
(4 ページ参照)

8月6日

伝道学校と教育プロジェクトの
ために (30 ページ参照)



9月3日

エクアドル、パニョスにある
治療院のために
(51 ページ参照)